

六稜同窓会141周年総会

日時：2014年10月26日（日）13時から

場所：北野高校 多目的ホール・六稜会館

開催のご案内

総会
多目的ホール

12:00 受付開始

12:45 在校生吹奏楽部の演奏

13:00 総会

活動報告

卓話：高島 正広さん（95期）

『いきいき人生 ピンピンコロ』

高齢化社会の到来で、予防医学の重要性が謳われてから、ずいぶんと時間が経つにもかかわらず、年々医療費は増大する一方で

す。

団塊世代も大量退職時代を迎え、自身の健康に関して、無関心ではいられなくなりました。

第95期卒業生の私は、今年で50歳。正直、最近では、気は若い

が身体がついてこないと感じることも多くなりました。

世間に目をやると、健康食品や健康グッズなど、健康にかかわる話題は毎日マスコミに溢れており、多く人の興味・関心が、こうした分野に向いてきているといいと思います。

しかしながら、医療に関しては素人である一般の方が、あまりにも多くの健康情報の中から、それらを正しく整理し、自分にとって本当に必要なものを選択するのは、なかなか容易なことではありません。

その一方で、予防医学専門の医師はまだまだ少なく、医師の側におきましても、十分に知識を共有できているとは言い難いのも事実です。

そうした状況ではありますが、今回この卓話を聞いていただくことで、皆さんが積極的に自分で予防医学を実践し、人生の質（Quality Of Life）を高め、ご自身の人生をどう有意義に生きるかを考える、一つの機会にいただければ幸いです。

Masahiro Takashima

高島クリニック 院長 医学博士
点滴療法研究会 ボードメンバー
NPO 法人ジャパンメディカルリンク 理事長
国際医科学研究会 理事
国際統合医療学会 評議員
日本統合医療学会 チベツト医療研究会 発起人
日本抗加齢医学学会所属
アメリカ抗加齢医学学会所属
JHSS 日本健康指導支援機構 常任理事

高島 正広（たかしまさひろ）氏

昭和39年11月28日生まれ

【学歴】

昭和58年3月 北野高等学校卒業
平成1年3月 近畿大学医学部卒業
平成1年6月 医師免許証取得
平成7年3月 近畿大学医学部大学院卒業
博士号取得

【職歴】

平成元年6月 近畿大学医学部附属病院
形成外科所属
平成7年4月 浜松医科大学病院
救命救急部所属
平成9年1月 ベルランド総合病院
形成外科部長
平成9年4月 近畿大学医学部附属病院
形成外科非常勤講師
平成9年4月 八尾厚生会第一病院
形成外科部長
平成11年4月 大阪南脳神経外科
形成外科部長
平成12年7月 高島クリニック 開院
現在に至る

（終了予定）14:45

懇親会及び
126期歓迎会

六稜会館 3F ホール

（終了予定）16:30

15:00 参加費5,000円

69期（S32卒）以前の方 2,000円、126期（H26卒）の方は無料

幹事期：95期

【お願い】 ご出席の方は、同封の返信はがきをお送りください

六稜会報
No.63

発行日 2014年9月1日
発行責任者 上田成之助（80期）
編集 六稜同窓会
広報委員会
広報委員長 千種康一（88期）

発行 六稜同窓会 <http://www.rikuryo.or.jp/>
〒532-0025 大阪市淀川区新北野 2-5-13 府立北野高校内
tel: 06-6306-0374 fax: 06-6306-1335
email: office@rikuryo.or.jp

事務局 平日 10:00~17:00（火・土・日・祝日は休み）

印刷 遊文舎

〒532-0012 大阪市淀川区木川東 4丁目17-31
tel. 06-6304-9325 fax. 06-6304-4995

RIKURYO KAIHO, Journal of the RIKURYO Alumni Association of Kitano High School



CONTENTS

- 2 会長挨拶
- 3 平成26年度新役員
- 4 名誉会長挨拶
- 5 スーパーグローバルハイスクール
- 6 会計報告
- 9 クラブ08・OG委員会&教育実習生報告
- 10 東京六稜会第57回総会ご報告
- 12 FR委員会
- 20 催事委員会
- 21 東西講演会
（六稜トークリレー 東京六稜倶楽部）
六稜文庫

Party Reports

- 22 同期会報告（60、63期）
（70、71、72、80、96、124期）
- 23 山岳部、頑張っています！
- 26 シンガポール六稜会
- 27 同期会予告
期別対抗ゴルフコンペ

- 14 トピックス
観梅会
記念碑の会
パレー部有志での「松浦先生を囲む会」
- 15 岡山六稜会・第31回総会のご報告

特集

- 16 「文化芸術祭のすべて」
- 28 北野高校国際交流
- 29 教職員異動
平成26年大学合格者・就職者数一覧

事務局だより

- 30 理事会報告
年会費納入のお願い
同期会開催助成金制度
お悔やみ/六稜カルチャー講座
- 31
- 32 141周年総会
開催のご案内

63
2014.9.1

六稜会報

【特集】

文化芸術祭のすべて 文化祭は如何にして進化を遂げたか



▲194分30秒におよぶ完全記録
希望者にブルーレイ/DVDで頒布

会長就任のご挨拶

六稜同窓会 会長 上田成之助（80期）

この4月から、山本雅弘・前会長の後を受け、歴史と伝統のある当同窓会の会長という大役を仰せつかりました。90歳を超えても大いに意気軒昂な先輩諸氏もおられるなど、まだまだ若輩の身ですが、精一杯、このお役目を果たせるよう微力を尽くして参る所存ですので、会員の皆さま、常任理事・理事の皆さま、各種委員会委員の皆さま、どうぞよろしくお願いいたします。

山本前会長は「みんなで寄ってたかって同窓会を楽しもう」というスローガンを掲げられ、同窓会活動の充実に尽力されました。それとともに、とかく慣例によって運営されていた種々の取り扱い等の文書化にもご尽力いただき、同窓会運営の基盤となる会則、諸規程などを整えていただきましたので、バトンタッチを受けました私としても、スムーズな運営がしやすくなるものと感謝しております。6年もの長きにわたってご尽力いただき、まことにありがとうございました。

私も山本前会長のもとで、6年間副会長を務めさせていただきましたが、現在、当同窓会が抱えている問題点は2つあると思っております。当同窓会は、永遠に発展・継続させていかなければなりません。そのためには、「財政基盤の確立」と「運営にあたるコア人材の確保」が必要です。ここ数年の同窓会の一般会計収支は、特殊要因のある年を除けば赤字であって前年度繰越金を毎年食いつぶしている状況で、このままでは近い将来、破綻してしまいます。収入の柱となる「会費収入」を増やす（年会費を払っていただいていない会員に、払っていただく）努力も必要ですが、とりあえずは「入るを量りて出するを制す」必要がありますので、事務局といろいろ検討を開始しております。会員の皆さまには、多少のご不便をおかけすることになるかも知れませんが、ご理解いただくとともに、会費未納の会員の方には、「一年に一回、同窓会を通じての母校への寄付だ」くらいに考えていただいて、ぜひ納入していただきたくよろしくお願いいたします。



もう一つの「運営にあたるコア人材の確保」についてですが、同窓会活動を支えてくれている委員会が7つ（総務、財務、会館催事、広報、FR、クラブOBOGの各委員会と5年に一度の名簿委員会）ありますが、この委員会の委員長及び核となって活動していただく委員の方々は、次々と若返りを図り、バトンタッチを続けていかなければなりません。「一度、同窓会活動の運営に携わってみようか」とお思いの会員の方がおられましたら、ぜひ事務局にご一報、ご相談いただきますよう、これもよろしくお願いいたします。

ところで、私の北野高校時代の思い出というのは、正直申し上げて余りありません。当時「庄内」に住んでいて、ベビーブームの時代ですから豊中市の中学校も足りなくなって新設されつつあった第七中学校へ入学したときは2期生で3年生はおらず、校舎も工事途中で、しばらくは校庭に仮設されたプレハブの中での授業を余儀なくされていた覚えがあります。そんな新設中学ですから進学指導等も歴史がなく、この中学から北野高校を受験したのは私を含めて2名だけでした。幸い合格したものの、入学直後に発見した同級生との知識レベルの格差！同じ中学でも教えてもらっている内容にこんなに差があったのか！と驚き、授業の内容とスピードについていくのが必死で、一学期の中間試験の結果にさらに大ショック、まさに「井の中の蛙やった…」。そんなカルチャーショックの中で、クラブ活動を考える心の余裕もありませんでした。それでも勉強は楽しく、北野高校で鍛えてもらった3年間のおかげで、志望大学への合格から社会人生活へと、今の自分があるのも北野高校のおかげであったと感謝しています。そんな母校へのささやかな恩返しの意味も含めて、繰り返しになりますが、六稜同窓会の発展のお役にたてるよう精一杯頑張ってまいりますので、皆さまのご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

平成26年度新役員

(2014年4月1日現在)		
会 長	上田成之助	(80期)
名誉会長	原田 恵子	(校長)
副 会 長	志 甫 博	(66期)
//	野村 正朗	(82期)
監 事	鈴木 基史	(80期)
//	高濱 滋	(94期)
常任理事		
総務委員長	徳岡 浩二	(92期)
財務委員長	桑原 豊	(77期)
会館催事委員長	田中 浩作	(71期)
名簿委員長	和田 芳郎	(80期)
広報委員長	千種 康一	(88期)
FR委員長	上松 誠	(112期)
クラブOBOG委員長	竹村 哲也	(88期)
東京	船戸 愛正	(72期)
学内	出口 学	(94期)
事務局長	笹川 忠士	(74期)
名誉顧問	稲畑 勝雄	(56期)
//	山本 雅弘	(71期)
顧 問	大山 利雄	(56期)
//	鎌田 俊一	(81期)

新役員ご挨拶

副会長 野村正朗（82期）

このたび副会長に就任させていただいた、第82期（昭和45年卒）の野村でございます。本来このような大役を仰せつかるような器ではありませんが、山本雅弘前会長からの一言でお引き受け致しました。実は、私は、私よりそな銀行の平成15年の公的資金注入時に社長をしておりました。国民の皆様のお支援により再生のチャンスをいただきましたことで、公私共に皆様方に「生かさせていただいている」ということを痛感致しました。特に高校・大学の先輩、後輩の方々の暖かいお言葉やご協力には感謝の思いで一杯でした。この思いをお返ししなければと、銀行を離れた後は頼まれ事は出来る限りお引き受けして参りました。北野卒業以来、一度も「六稜同窓会」に出席したことのなかった私ではありますが、社会に出て「北野」という絆の太さを実感した一人として、出来る事もあるのではと思っております。このような私ではありますが、新会長の上田成之助様の御指導の下、六稜同窓会の更なる発展に頑張って参る所存ですので、どうか皆様方の御支援、御鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

財務委員長 桑原豊（77期）

図らずも、財務委員長という役割を担当することになってしまいました。前委員長の藤田秀昭大先輩が見事に務められた後だけに、プレッシャーは大きく、当初は打診をお

断りしていましたが、最終的に笹川忠士事務局長に押し切られてしまいました。図らずもではなく、謀られてということになりました。

このたびの同窓会の新体制では、事務局長とはクラブでの繋がりがありますし、上田成之助会長、野村正朗副会長とは学外での接点が多少なりともありましたので、何とか職責は果たせそうという気がしています。上田会長は、早速収支予算の見直しに着手され、財務担当者としても大変だという意識をもって、当面は、会費の納入率のアップをどう実現するかなど考えていかなければなりません。

80期以降の方々が、理事の大半という中で、77期が財務委員長をしていていいのかということもあり、ショート・リリーフのつもりで務めさせていただきますので、宜しくお願い致します。

監事 高濱滋（94期）

このたび公認会計士業界の大先輩である北浦康弘先輩（71期）からバトンを受け、監事を拝命いたしました高濱滋（94期）でございます。

卒業後は暫く母校との関わりはありませんでしたが、8年ほど前に現在も開催されている一年生向け「キャリアガイダンス」の講師（公認会計士）としての参加から始まり、昨年の140周年大同窓会の幹事としての活動（中心ではありませんでしたが…）及び140周年記念名簿への広告掲載のための有志取り纏めと徐々に母校との関わりが強くなり、現在に至っております。

監事という役回り上、同窓会において積極的に活動する立場ではございませんが、同窓会会員の皆様からお預かりしている会費が適切に使用されていることをしっかりと確認していく所存です。ただ、同窓会の活動原資となる会費収入が不足しているようですので、今後、会費獲得に尽力できればと考えております。

東京 船戸愛正（72期）

松本邦弘さん（70期）からバトンを引き継ぎました。もっと若い期への中継ぎ役です。

1 高校時代のこと

- 所属クラブ：応援団 弁論部
前者はなお活動していますが、後者は、我々が創部（復活かも）し、線香花火2回で消滅です。
- 最も記憶に残ること
教師と生徒が一体になって取組んだ「勤務評定反対闘争」です。
左翼政党と左翼迎合のマスコミに乗せられていたのですが真摯でした。

2 趣味その他

- ゴルフ学：歴35年で中退しました。言うことを聞かないボールと縁がきれてヤレヤレです。
- お酒学：高校時代同窓会のパーティで痛飲したのが始まりの長い勉強でしたが、3年前から休学中です。状況に応じ一時復学します。
植物学、日本古代史学、世界地理学：履修中です。
ぼっくり逝くまで中退しないつもりです。

北野高校のスーパーグローバルパワー

大阪府立北野高等学校 校長
六稜同窓会 名誉会長 原田 恵子



文部科学省が平成26年度からスタートさせたスーパーグローバルハイスクール（SGH）事業において、本校は全国56校の一つとしてスーパーグローバルハイスクールに指定された。事業の目的は、「急速にグローバル化が加速する現状を踏まえ、社会課題に対する関心と深い教養に加え、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身につけ、将来、国際的に活躍できるグローバル・リーダーを高等学校段階から育成する」というものである。また、事業概要として「国際化を進める国内の大学を中心に、企業、国際機関などと連携を図り、グローバルな社会課題を発見・解決できる人材や、グローバルなビジネスで活躍できる人材の育成に取り組む高等学校を『スーパーグローバルハイスクール』に指定し、質の高いカリキュラムの開発・実践やその体制整備を進める」としている。

この事業の目的は、本校の教育の目的と合致するものであり、極めて自然な流れの中で計画を練ることができた。

本校は「アジアと学び合う一夢を実現する国づくり」をテーマとして「比較文化的アプローチ」「経済的アプローチ1」「経済的アプローチ2」「歴史的アプローチ」の4つのアプローチで、京都大学東南アジア研究所等多くの大学や機関の協力を得ながら研究を進めることにしている。

平成26年1月14日に文部科学省からの正式な説明会開催と公募開始、1月28日正午までに申請希望調査提出、2月14日正午までに構想調査等提出、そしてこの短期間に、大学や企業等における連携協力者の内諾を取り、文部科学省に申請しなければならないという極めてハードなスケジュールだったのである。申請後、文部科学省から連携協力者に確認を取った時に、本人が内容を知らないなどということがあれば、即、申請は却下されるという説明もあった。私たちは皆一様に青ざめる思いで会場を出たのである。

そして、ここから発揮された北野高校の「スーパーグローバルパワー」の一端をご紹介したい。

まず、前年12月にさかのぼって話を始めさせていただきます。教育委員会からSGH事業について、事前に情報提供を受けていたGLHS（平成23年度に大阪府から指定をうけた進学指導特色校、グローバル・リーダーズ・ハイスクール）10校のうち、都合のついた4校の校長が教育委員会の参事とともに文部科学省に出向き、事前相談をした時のことである。私が、「本校の今後の英語教育の方向性として、インド出身の方にICTについて英語で授業をしてもらうとか、マレーシア出身の方に国づくりについて英語で語ってもら

うとかということを考えているのですが…」と話したところ、文科省の担当者が「『マレーシアの国づくり』は良いテーマですね」と一言つぶやかれた。そして、相談を終えて帰阪した翌日、本校にマレーシア・トレンガヌ州起業家開発省から「1月に約20名のメンバーで学校訪問したい」との英文メールが届いたのである。私は、てっきり文部科学省からの紹介だと思い込んで、すぐに受け入れを承諾したのだが、来校されてからわかったところでは、文科省は全く関与していなくて、たまたまトレンガヌ州の関係者に以前大阪大学に留学していた人がおり、その人物が訪問先として北野高校を推薦されたということだったのである。トレンガヌ州には外国企業が次々と工場を設置するのだが、そこでリーダーとして働くことのできる地域の人材育成が進んでいないので、リーダー育成のための高校におけるカリキュラム等を学びたいということが目的であることも、その時わかったことである。この一種神がかり的な出来事もあって、本校の研究テーマが決まっていたのである。

次に、アジアの国づくりを研究するにあたって、中心的指導者を誰に依頼するかを検討した。いろいろ議論をした結果、京都大学東南アジア研究所の研究者に依頼するのが良いだろうということになった。そこで、本校の現状とSGH応募にあたっての研究指導依頼文書を東南アジア研究所の広報課に送信し、関心を持ってくださる方がいらっしゃったら私の携帯メールに連絡いただきたいとお願いしたところ、数日後、私の携帯に次のようなメールが届き、私は本当に感激したのである。

「本研究所の広報課より、SGH申請のことをうかがいました。現在、インドネシアに出張中です。私は北野高校のOBですので、できる限り協力させていただきます。」

このメールを送ってくださった東南アジア研究所の岡本正明准教授に研究指導の柱となっていた、その後短期間の間に多くの大学関係者からのご協力を得てSGH構想調査が出来上がったのである。ちなみに、岡本先生は、本校SGH委員会副委員長の穴井教諭と北野の同期生であることが後日わかった。

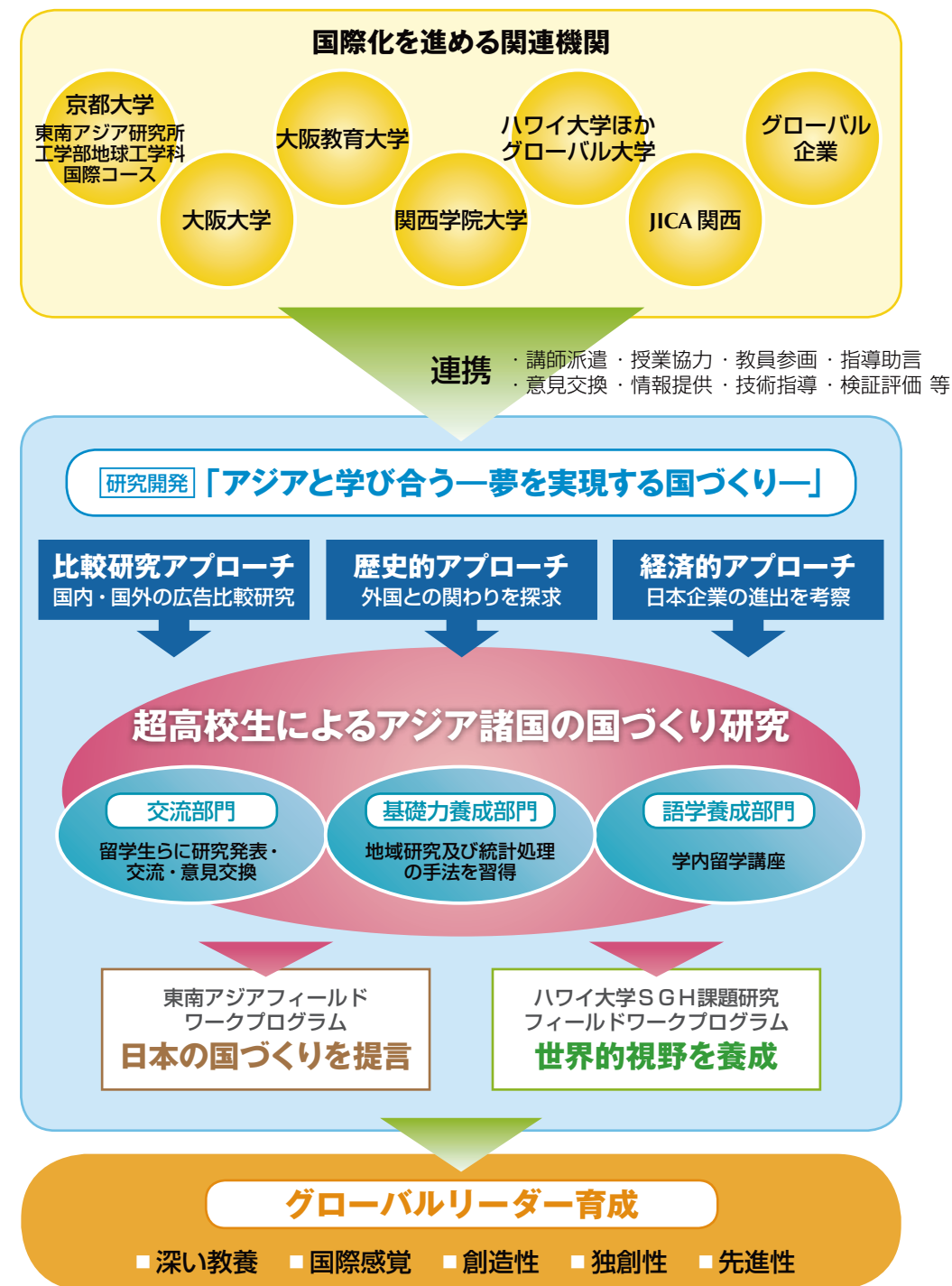
世界中のどこでも、どんな分野・どんな場面でも、「北野高校」というキーワードで素晴らしいネットワークが築かれ、母校を支えてくださる。まさに「北野高校スーパーグローバルパワー」であると実感する次第である。

どうか今後とも引き続き、本校教育にご支援、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

スーパーグローバルハイスクール

北野高校が育成するグローバル・リーダー像

知・心・体のバランスのとれた人物で、高い学力・自ら課題を見つけ解決する力・英語スキルを武器としながら、世界の中の日本という視点で物を考え、国境をこえて活躍でき、自分の能力を人類の幸福のために生かそうという高い志とチャレンジ精神を持ち、その思いを実行、実現できる能力を身に付けた人物。



北野高校の原図より配置を変更

会 計 報 告

平成25年度 六稜同窓会一般会計決算報告			
自：平成25年 4 月 1 日		至：平成26年 3 月31日 (円)	
	平成25年度 予算	平成25年度 決算	備 考
収 入 の 部			
1 入会金収入	960,000	972,000	324名×3,000
2 年会費収入	19,500,000	18,164,600	6,062名
3 寄付金収入	0	273,000	
4 利息収入	0	993	
5 会館維持協力金	930,000	1,061,500	
6 同窓会記念品売上他	1,000,000	438,108	
収 入 合 計	22,390,000	20,910,201	
支 出 の 部			
1 運 営 費	12,380,000	11,960,300	
(1) 人件費	7,800,000	7,505,050	
(2) 旅費・交通費	1,300,000	1,403,190	
(3) 通信費	400,000	390,675	
(4) 印刷・事務用品費	1,080,000	1,060,897	
(5) 什器・備品	0	222,600	
(6) 会議費	100,000	104,116	
(8) 慶弔費	400,000	207,750	
(9) 会費払込手数料	900,000	860,486	
(10) 同窓会記念品制作費	100,000	0	
(11) 雑費	300,000	205,536	
2 広 報 費	6,350,000	6,139,457	
(1) WEB 関連費	850,000	810,912	
(2) 会報発行関連費	5,400,000	5,328,545	
(3) 広報全般経費	100,000	0	
3 全国大会等出場援助費	200,000	210,000	
4 各種事業援助費	1,380,000	1,216,202	
5 教育環境整備援助費	300,000	300,000	
6 同窓会館関連費	2,100,000	1,884,431	
(1) 什器備品・設備費	400,000	84,000	
(2) 光熱費	1,300,000	1,435,761	
(3) 設備管理費	400,000	364,670	
7 予備費	23,200	0	
支 出 合 計	22,733,200	21,710,390	
本年度収支差額	△ 343,200	△ 800,189	
140周年記念総会仮払金戻り	343,200	343,200	
年会費前年前受	△ 8,050,500	△ 8,050,500	
次年度年会費前受	8,500,000	8,122,500	
前年度繰越金	4,712,831	4,712,831	
次年度繰越金	5,162,331	4,327,842	

以上の通り平成25年度一般会計報告を致します
平成26年 4 月16日 六稜同窓会会長 山本 雅弘
上記一般会計報告は正確であることを認めます
平成26年 4 月16日 六稜同窓会監事 北浦 康弘
六稜同窓会監事 鈴木 基史

平成25年度 六稜同窓会基金会計決算報告		
自：平成25年 4 月 1 日		至：平成26年 3 月31日 (円)
科 目	決 算	摘 要
収 入 の 部		
1 利息収入	3,961	
収 入 合 計	3,961	
支 出 の 部		
1 北野140周年事業負担金	5,000,000	
2 振込料	1,425	
3 残高証明手数料	420	
支 出 合 計	5,001,845	
本年度収支差額	△ 4,997,884	
前年度繰越金	22,383,086	
次年度繰越金	17,385,202	三井住友定期・普通預金・ゆうちょ普通

以上の通り平成25年度基金会計報告を致します
平成26年 4 月16日 六稜同窓会会長 山本 雅弘
上記基金会計報告は正確であることを認めます
平成26年 4 月16日 六稜同窓会監事 北浦 康弘
六稜同窓会監事 鈴木 基史

平成25年度 六稜同窓会名簿会計決算報告			
自：平成25年 4 月 1 日		至：平成26年 3 月31日 (円)	
科 目	(第2年度) 自:平成25年4月1日 至:平成26年3月31日	(累 計) 自:平成24年4月1日 至:平成25年3月31日	摘 要
収 入 の 部			
1 販売高	1,340,000	3,492,000	一般へ販売 835冊
2 広告代	1,845,000	2,045,000	
収入合計	3,185,000	5,537,000	
支 出 の 部			
1 名簿印刷代	2,904,300	2,904,300	国際印刷出版研究所 1,000冊
2 発送費用	348,760	348,760	日本郵便
3 校正等人件費	678,460	678,460	アルバイト
4 表紙他雑費	105,524	105,524	クレアドール写真他
支出合計	4,037,044	4,037,044	
本年度収支差額	△ 852,044		
前年度繰越金	2,352,000		
次年度繰越金	1,499,956	1,499,956	基金会計へ繰入予定

(注) 140周年名簿 3 月末在庫残高 117冊

以上の通り平成25年度名簿会計報告を致します
平成26年 4 月16日 六稜同窓会会長 山本 雅弘
上記名簿会計報告は正確であることを認めます
平成26年 4 月16日 六稜同窓会監事 北浦 康弘
六稜同窓会監事 鈴木 基史

平成26年度 六稜同窓会一般会計予算	
平成26年 4 月 1 日 (円)	
	平成26年度予算
収 入 の 部	
1 入会金収入	960,000
2 年会費収入	18,195,000
3 総会費収入	600,000
4 寄付金	0
5 利息収入	0
6 会館維持協力金	1,000,000
7 同窓会記念品等売上他	500,000
収 入 合 計	21,255,000
支 出 の 部	
1 運営費	11,670,000
(1) 人件費	6,300,000
(2) 旅費・交通費	1,300,000
(3) 通信費	400,000
(4) 印刷・事務用品費	1,100,000
(5) 什器・備品	0
(6) 会議費	100,000
(7) 総会費	1,100,000
(8) 慶弔費	220,000
(9) 会費払込手数料	900,000
(10) 同窓会記念品制作費	0
(11) 雑費	250,000
2 広報費	6,150,000
(1) WEB 関連費	700,000
(2) 会報発行関連費 (63号) (64号)	2,700,000 2,700,000
(3) 広報全般経費	50,000
3 各種事業援助費	1,450,000
4 教育環境整備援助費	100,000
5 同窓会館関連費	1,800,000
(1) 什器備品・設備費	240,000
(2) 光熱費	1,260,000
(3) 設備管理費	300,000
6 予備費	85,000
支出合計	21,255,000
本年度収支差額	0
年会費前年前受	△ 8,122,500
次年度年会費前受収入	8,500,000
前年度繰越金	4,327,842
次年度繰越金	4,705,342

平成25年度決算・平成26年度予算は平成26年 6 月 28日の理事会で承認されました
お問い合わせは事務局へご連絡下さい

大阪府立北野高等学校創立140周年記念事業会計決算報告書		
大阪府立北野高等学校創立140周年記念事業実行委員会 (円)		
収入の部		
項目	収入額	摘要
積立金等	8,500,502	
繰入金	5,090,031	
協賛金	5,000,000	北野高校六稜同窓会からの協賛金（平成25年）
合計	18,590,533	
支出の部		
項目	支出額	摘要
記念誌費	3,780,000	記念誌印刷（カラー114頁）
記念式典費	507,670	中央公会堂利用料金 中央公会堂設備、大道具代 略校旗等作成 記念講演講師謝金 式典プログラム印刷費
記念品費	1,500,000	140周年記念品（手提げ紙袋を含む） スタンドクロック
記念事業費	11,657,140	多目的ホールガス空調機整備 六稜天文台望遠鏡修理等 生徒用トイレ改修工事 記念花壇整備 六稜会館壁面塗装 六稜会館除湿機取替
運営費	176,756	実行委員会会長の印作成 式典案内状等印刷、郵送料 記念誌郵送料 消耗品等購入 記念総会等収支差額補助
繰越金	968,967	150周年記念事業基金（仮称）に繰越積立
合計	18,590,533	

140周年総会・祝賀会会計報告		
自：平成25年4月1日 至：平成26年3月31日 (円)		
科目	決算	摘要
収入の部		
1 祝賀会費（会員他）	3,870,000	
2 140周年記念事業会計より補填	55,474	未収入金（4/15入金済）
収入合計	3,925,474	
支出の部		
1 祝賀会費用	3,172,590	大阪市中央公会堂他
2 その他	752,884	印刷代他
支出合計	3,925,474	
収支差額	0	

参加者
総会 450名
祝賀会 393名

●第一回クラブOB・OG委員会&懇親会報告

委員長 竹村 哲也（88期）

6月28日午後4時より六稜会館にて、表題の第一回委員会を開催し、15クラブ24名の委員が参加されました。上田同窓会長のご挨拶の後、各クラブ委員の自己紹介とOB・OG会の現況報告、委員会としての今後の活動について意見交換を実施。既設の「八木彰一郎賞」という顕彰制度について、文化活動のみに限定せず、運動部を含めたクラブ活動全体に適用することなどが報告されました。その後、場所を変えて懇親会へと移行。各クラブ間の親睦・交流を図るよい機会となりました。今後は年1～2回程度開催する予定です。委員の方々、今後ともよろしくお願いたします。



●教育実習生報告

26年度教育実習生一同

私たちは5月23日～6月6日まで、北野高校で教育実習をさせていただきました。久しぶりに母校に帰ってきて、懐かしい居心地と新鮮な気持ちが入り交錯しながら、現役生と共に学ばせていただきました。ある日、先輩二人とお話する機会がありました。先輩の話聞き、私たちの思い描いている教師像と現実とは少し違うのかもしれないと感じました。そして、実習生同士もお互いの進路について話し合いました。先生になるために教育実習をしている私たちですが、すぐに採用試験を受ける人、院に進学する人、一度は民間就職も考えている人など、進路は様々あることがわかりました。そこで、教師という仕事について、もっと知り

たいと思い、26年度教育実習生が中心となって、六稜生の教育イベントを企画しました。教職を志している卒業生と、すでに教職に就いている先輩方との交流を図りたいと思います！すでに先生になられている先輩方のご協力をよろしくお願いいたします。ぜひお話を聞かせてください。



日時 2014年9月21日（日）
13時開場 13時30分開始 16時終了
場所 六稜会館3階ホール
内容 1. 教諭をされている先輩からのお話
2. みんなでレクリエーション（ゲームなどを考えています）
3. 談話会（終了後、希望者で懇親会を予定しております）
参加費 200円（茶菓子代）
申込先 [教職を目指す学生の方]
note753_0426@yahoo.co.jp
122期 奈良妃依里
[教職に就かれている先輩の方]
jasse@jasse.org
73期 梶本興亜
111期 松岡信道



校歌斉唱

東京六稜会第57回総会が、6月21日（土）に学士会館で開催されました。幸い、天候にも恵まれ、200名もの同窓生が一堂に会しました。

【総会】

総会は、山根仁志さん（95期）の司会進行で始まりました。まず、志甫湾東京六稜会会長（66期）からのご挨拶では、多数の出席に対するお礼のあと、2003年から10年



総会司会 山根仁志さん

以上続いている東京六稜倶楽部のご紹介がありました。



志甫湾東京六稜会会長

部のご紹介がありました。来賓の原田恵子北野高等学校校長からは、今年度より文理学科に続き普通科も学区撤廃となり、大阪府全域から北野高校を希望して受験する生徒が増えたことと、文部科学省より「スーパーグローバルハイスクール」の指定を受け、その発表会を2015年1月31日にグランフロント大阪にて行うというご報告がありました。



原田恵子校長

次に、野村正朗六稜同窓会副会長（82期）から、昨年11月2日に開催されました140周年記念式典と総会について非常に盛会であったとご報告がありました。また、同窓会の財政基盤の確立として、現役を支えるという意味でも、六稜会費の納入をお願いしたい、とのお話がありました。



野村正朗六稜同窓会副会長

谷垣建有（95期）



黒岩暎一東京六稜会事務局長

最後に、黒岩暎一東京六稜会事務局長（75期）より、会計報告とあわせて、役員改選の説明があり、会長については引き続き現在の志甫会長にお願いするということ、本総会で、拍手にて承認されました。

【第一部 記念講演】

宇宙航空研究開発機構（JAXA）の宇宙科学研究所教授の藤本正樹さん（95期）に「惑星探査をドライブするものは何か」という演題で話をいただきました。藤本さんは北野高校卒業後、東京大学に入学、理学部に進学して地球惑星科学を専攻、大学院に進学し理学博士を取得。名古屋大学助手、東京工業大学准教授を経て、2006年より現職に就かれ、現在は太陽系科学研究系研究主幹、宇宙科学国際調整主幹、および東京大学大学院教授も兼任されています。



講師 藤本正樹さん

講演ではまず、宇宙科学の中の惑星探査という分野では、少し前までSFの世界とされていたものがどんどん現実のものとなっている、という説明があり、その惑星探査をドライブしているものは、難しいことではなく、人間として根本的に持っている好奇心によってであるとのことでした。「あのコーナーの先には何があるのか」という子供のころの好奇心をベースに、「太陽系の形はどうやって出来上がったのか？」「地球に生命がいる理由、さらに一般的な生命居住可能性」という惑星科学の二大問題意識があるということでした。

次に、日本の惑星探査として、映画等でも有名になった「はやぶさ」がどのような成果を上げた

かのお話があり、「はやぶさ」が小惑星から採取してきたサンプルによって、太陽系の衝突進化わかるという、非常に貴重なものであるというお話でした。

また、「はやぶさ2」や水星探査、木星探査、火星探査などこれから日本が参加しようとしている計画のお話があり、「太陽系がどのようにできたのか」や「生命居住可能性」についてなど、終始私たちの好奇心をそそる講演でした。

最後に、惑星探査は人類として為すべきことであるが、その一方で、時間とお金がかかるものであり、観測されたものから知りたいことが直接わかるわけではない、というお話がありました。そして、その点を理解したうえで、少し我慢して今後も応援していただきたいと締め括られました。

【第二部 懇親会】

懇親会の司会進行は大間栄美さん（95期）が務めました。まず、来賓の原田恵子北野高等学校校長、野村正朗六稜同窓会副会長（82期）、北野高等学校西田康子教諭（95期）、六稜同窓会田中浩作（71期）・上松誠（112期）両常任理事、笹川忠士事務局長（74期）、久保田静事務局長次長（73期）の紹介があり、田中理事から代表挨拶を頂戴しました。続いての鏡開きでは、原田校長、山根義夫東京六稜会常任幹事（65期）、上松常任理事（112期）、谷垣建有95期代表幹事、小山真澄若手交流会幹事（111期）が登壇、「よいしょ！」の掛け声で勢いよく木槌が振り下ろされました。そして最年長の大山利雄さん（56期）の力強いご発声で、乾杯が行われました。



懇親会司会 大間栄美さん



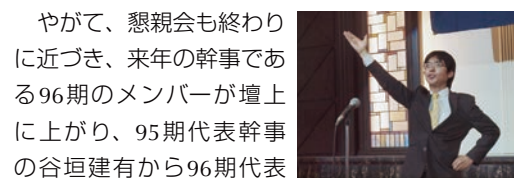
鏡開き

歓談の後、昨年に引き続き、参加者全員が10チームに分かれて競う「クイズ大会」となりました。「十三の地名の由来は？」「(写真を見て)喜八州総本舗のみたらし団子はつぎのうちどれ？」など、北野高校に関係するちょっとディープな問



クイズ大会

題に、チーム内では80歳台から20歳台まで世代を越えて意見を出し合い、盛り上がっていました。ここで、一旦クイズ大会を中断し、マイクは小山真澄さん（111期）と安藤裕二さん（115期）の若手交流会両幹事に渡り、新会員の紹介と若手アワーとなりました。勝俣晴日さん（125期）、芦崎友里絵さん（125期）、空元香安莉さん（125期）、橋本有加さん（125期）、田村真琴さん（126期）、藤田剛さん（126期）の6名の新会員が壇上で元気に挨拶され、会場からは歓迎の大きな拍手が起きました。続いて、若手アワーの締めくくりとして、安藤裕二さんからクイズ大会の最後の問題が出題されました。「旧校舎時代の多くの植栽の中で、現在も残っている木は？」という若手の力が必要な問題に、各チーム写真を見ながら喧々諤々、正解が発表されると、大きな歓声が上がりました。



エール

やがて、懇親会も終わりに近づき、来年の幹事である96期のメンバーが壇上に上がり、95期代表幹事の谷垣建有から96期代表幹事の村井正親さんへ櫓が引き継がれました。そして、安藤裕二さんのエールに続いて、高橋誠さん（95期）指揮、川口真理さん（95期）のピアノ伴奏による校歌斉唱で会場が一体感に包まれたところで、第57回東京六稜会総会・懇親会はめでたくお開きとなりました。

今回は、56期の大先輩から126期の新会員の方まで、大変幅広い年代の方にご参加いただきました。それぞれ時代は違いますが、北野高校という同じ場所で青春を過ごしたという繋がりを強く感じた会となりました。北野高校関係各位、六稜同窓会・東京六稜会の皆様、また、遠方からもお運びくださった参加者の皆様に、心より御礼申し上げます。



新会員の皆さん

2014年前半、FR委員会活動報告

2014年3月～7月のFR委員会の活動報告を行う。FR委員会は20代30代の若手会員が参加しやすい同窓会を目指し、様々な活動を行っている。特に、この4ヶ月はFR委員会として様々な変化のある期間となった。

●北野大学2014

3月下旬、卒業2年目の124期有志8名が中心となって、「北野大学2014」を開催した。

北野大学2014 開催報告

北野大学プロジェクト代表 吉田 寛 (124期)

去る3月27日、124期・125期有志で「北野大学2014」を開催しました。「北野大学」とは、多様な大学生と現役の高校生が対話を通じて相互に学びや気づきを得よう、ということをも目的としたイベントです。昨年夏に企画をし、半年以上を経て、ついに第一回を開催することができました。開催にあたり先生方やFR委員会の皆様の多大なるご協力を賜りましたこと、厚くお礼申し上げます。

私は大学入学以降、多くの方と関わり広い世界を見るうちに、自分の高校時代がいかに限定的で視野が狭いものであったかを知りました。同時に、優秀で才能に溢れた友人が何の目的も持たずに情性で過ごしている様子を目の当たりにしました。「高校時代に広く世界を見据え、確固たる夢や目的をもって進路選択をするためにはどうすればよいのか」。そう考えた結果、できるだけ多くの人と話すこと、自分の将来を柔軟に、そして能動的に考える機会をつくることが重要であると思い、本イベントを企画しました。

企画から実施に至るまでには、自分たちの考えの甘さから何度も頓挫しそうになり、その度に多くの方にご迷惑をおかけしました。当日も大学生は16名集まったものの、

開催時間が部活動時間と一部重なってしまい、高校生の参加者は4名に留まりました。しかし、参加してくれた4名とは終始和やかなムードでじっくりと対話することができ、彼らが今抱えている悩みや将来への思いを聞くことができました。そして自分たちの経験や知識をもとに大学生が高校生にアドバイスをしました。参加した高校生からは「様々な人生を歩んでいる、いろんな価値観をもった先輩方から、多視点で1つの物事を語っていただけて、単なる相談に済まず、自分の視野や価値観を広げられる良い機会となった。」といった感想もいただき、満足していただけたと思っています。

次回開催はまだ確定していませんが、今回の反省を活かして前向きに取り組んでいこうと思っています。今後とも応援よろしくお願い致します。



●126期 新人幹事歓迎会

3月29日、本年3月に本校を卒業した新人幹事を迎えて、新人幹事歓迎会を開催した。FR委員会から6名、他委員会の委員長や事務局の方々、大学生の幹事の方も時間を縫ってかけつけてくださり、総勢27名の会になった。恒例の自己紹介では、先輩方を前に緊張していた新人幹事であったが、同窓会の活動内容の説明などを進めていくうちに、笑顔もこぼれるようになった。さらに、笹川事務局長のはからいで、同窓会館地下ギャラリーも特別に見学させていただいた。

新人幹事歓迎会に参加して

神尾 元樹 (126期)

六稜同窓会の新人幹事歓迎会、初めて先輩の方々と顔を合わせるということで若干緊張していましたが、いざ始まるとみなさんとてもフレンドリーに接してくださり、とても楽しい時間を過ごさせて頂きました。この会に参加して私が感じた3つのことを書こうと思います。

1 つめは、ピザ・寿司と食事がとても豪華だったことです。とっても美味しかったです。参加して良かったと思いました。2 つめは、先輩方のお話を聞き、この高校は横の結び付きだけでなく、縦の結び付きがとても強い学校であると再認識したことです。様々な職種に多くの先輩がいっしょにすることを知り、これから社会に出ていく私たちにあって、とても心強く感じました。3 つめは、私と4、5歳しか変わらない同窓会委員の方々と間近に接し、と

ても頼もしく思うと共に、私も数年後にはあの方々のようにしっかりと人間に成長できるのだろうか、と一抹の不安を感じたということです。私たちは最後のゆとり世代ということで、脱ゆとりの後輩たちに舐められないようにせねばなりません(笑)。日々精進であります。

この会に参加してたくさんの刺激を受けました。私たち126期も六稜同窓会の一員としての自覚を持ち、北野高校の今後に貢献できるよう努力していきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。



●東京六稜会若手交流会とのコラボレーション

4月、FR委員会委員長・上松が関東地方へ引っ越し、FR委員の関東地方在住者が4名となった。委員長が関西地域以外に拠点を置くのは他の委員会では見られないことである。FR委員会は、「20代・30代の六稜会員の会」と位置づけており、この年代は異動が大きく伴うと予測される。日本各地にいるであろう若手会員が同窓会に参加しやすいように、FR委員会としては大きく組織を変化させたのである。

東京六稜会の中にも、若手交流会担当の方がいらっしゃることは、会報や六稜ホームページで知っていたが、今まではなかなか交流がなかった。そこで、6月21日に学士会館で行われた東京六稜総会に上松、和田の2名が出席し、東京六稜会若手交流会幹事である小山真澄さん(111期)、安藤裕二さん(115期)とFR委員会と東京若手交流会の活動を一緒に行おうと同意した。

東京六稜会から始まるご縁

東京六稜会若手交流会幹事 小山 真澄 (111期)
安藤 裕二 (115期)

去る6月21日(土)、「六稜の星のしるしを青春の額にかざし」から始まる北野高校の校歌が約200名の大合唱で響き渡り、第57回東京六稜総会の幕が閉じました。年に一度、大阪から離れた卒業生たちが、世代も環境も超えて一つになった瞬間でした。このような、世代も環境も超えて一つになる機会を年に一度でなく「もっと身近に六稜生の交流を増やしたい」という想いから、2013年より若手を中心に期を超えて集う機会を増やしています。卒業して早10年が経ち、皆とひとつながりたいという想いが、若手交流会を実現させました。

今年も総会の後、昨年の幹事期である94期の先輩から高校卒業後上京してまもない126期までの約40名が同じテーブルに集いました。数学の演習や断郊競走、縄跳びの話からはたまた人生の相談に至るまで、会話に大きな花を咲かせ、笑いの絶えない時間となりました。在学期間が重な

っていないにも関わらず、「北野」という共通の経験があることで、同じ話題で盛り上がり、新たなつながりができる機会となっています。

そのような期を超えたつながりが一つずつ増えていくように、昨年度はBBQやハロウィンパーティー、お花見など計5回のイベントを開催しました。今後とも縁を広げていくべく、若手から東京六稜会を盛り上げていきたいと思っています。是非、皆さんとより一層つながっていくことができれば、と願っています。



また、昨年度の行列のできる就活相談所に参加した大学4回生から、今後のFR委員会の活動に参加したいという嬉しい知らせも届いた。本年度は、大学生から自主的にイベントを開きたいという打診やFR活動に参加したいという声が多く聞かれた。20代30代の若手会員を同窓会活動に巻き込もう、と画策しているFR委員会にとってはとても嬉しいことである。今後もFR委員会が先頭に立って、若手会員が参加しやすい同窓会を目指していく。

<今後のイベント予告>

例年であると、11～12月の土曜日に「行列のできる就活相談所&若手交流会」を開催し、2月頃に模擬面接やES添削、若手交流会等を開催してきました。しかし、今年度より企業の就職協定により新卒の就職活動が年明けより始まることと予測されます。そこで、本年度より就職活動のスケジュールに合わせ、年明けに開催する予定です。また、本年度より関東での開催も予定しています。関東在住の大学生のみなさんもぜひご参加ください。

行列のできる就活相談所&若手交流会

時期：2015年2～3月頃
開催場所：大阪：六稜会館、東京：都内
★その他、就職関係のイベント、若手交流会も開催予定

※これらのイベント情報は六稜WEBやFacebookにて順次発表していきます。
イベント参加希望者は、以下のサイトで情報登録していただければ、メールにて情報を配信いたします。

登録サイト▶ <http://goo.gl/SWF8e3>



★FR委員会では、Facebookの「【六稜FR】北野高校若手OB.OG! (20代・30代)」のグループページにて、様々な情報発信をしています。ぜひご覧ください。

トピックス

●観梅会（2月26日開催）

事務局

今年も観梅会が開催されました。開花は昨年が続いてやや遅れていました。PM2.5の影響で薄曇りの中、今年は50期から79期まで、82名が集いました。

私たちだけではなく、日本以外の方も梅の鑑賞に来られており、六稜同窓会が創立100周年を記念して大阪府に寄贈した梅林が、40年の歳月を経てしっかり社会に根づいていると感じることができました。

11時に記念碑前に集合、記念撮影のあと各自で梅の花を楽しみました。

その後懇親会会場に移動し、先輩後輩や同期生同士等で友好を深めました。

懇親会では山本雅弘会長（71期）、最長老・阿部源三郎さん（50期）の挨拶の後、田中浩作さん（71期）指揮の校歌斉唱で午後2時前に開きとなりました。



●記念碑の会（4月18日開催）

事務局

毎年、北野中学創立記念日の4月20日に開催していますが、今年は日曜日の為18日（金）になりました。

早朝の雨が上がり陽がさしてきた中、約30名の六稜生が今年も大阪府済生会 中津病院本館正面前庭にある大阪府立北野中学校跡 記念碑」前に集いました。記念撮影のあと、タクシーで十三



に移動し、ホテル プラザオーサカで懇親会 がありました。

●バレー部有志での「松浦先生を囲む会」

久野須賀子（96期）

4月12日（土）午後、千里中央にてバレー部OB・OG有志による「松浦先生を囲む会」を開催し、84期～99期の16名が集まりました。

松浦先生にお会いするのは30年ぶりです。

当日は準備もあって、お迎えに何うのがかなり遅れてしまいました。すると先生は、車に乗るや否や、私の段取りの悪さを叱り飛ばされました。

現役の時と同じように遠慮なく指導していただいたことに、私は緊張しながらも心地よく感じ反省したという始まりでした。

バレー部は代々、大学生OBがコーチ

となり現役を指導し、まわりのOB・OGがそれを支えてきた歴史があります。集まったメンバーは、まさにそのころのコーチと現役。そこに大指導者である松浦先生の登場となり、場は30年ほど前にタイムスリップしました。

冒頭、84期の辻孝生さんの乾杯でスタート。そして松浦先生のバレー指導の厳しさはもちろんのこと、体育授業の断郊競走、縄跳び、水泳の潜水のテストのこと、その中で、先生に怒られたこと、褒めてもらったことが昨日のように口々に飛



び出しました。

一言挨拶の中では、「世の中に出てそれぞれの立場になっても当時の先輩後輩のつながりは変わらない」「同期だけでなく他の学年も交わると初めて聞くエピソードが新鮮」「今日の再会が新たな出会いのスタート」など、会話が途切れることなく非常になごやかな会となりました。

最後に松浦先生から、バレー部の生徒を大切に思っていること、それぞれの立場になってもこうして再会できたことを喜んでいるとお言葉をいただきました。

私自身、社会人となって間もなく東京に転勤し26年。昨年大阪に戻り、今回このような会を開かせていただいたことで、北野バレー部の仲間・つながりに支えられていたということにあらためて感謝するとともに、バレー部に入ってよかったという思いが込み上げてきました。松浦先生ありがとうございました。そしていつまでもお元気で！

●岡山六稜会・第31回総会のご報告

足立富郎（82期）

7月に入り、荒れた天候になっています。そのような中でも早朝からホトトギス（岡山県の鳥：1964～'94）の独特な鳴き声を聞けば爽やかな気分になります。詩歌では同時期に花を咲かせる橘や卵の花とを織り交ぜて読まれています。ホトトギスは美しい声で鳴く一方、肉食性でトカゲやケムシなどを食べ、さらにウグイスの巣に産卵・抱卵・育雛を委ねる習性があり、1994年2月からは「キジ」が「岡山県の鳥」に変わりました。



また1989年からは「晴れの国おかやま」を県の標語とし、今年も東北から移住された被災者その家族に魅力体験プログラムを実施しています。

岡山六稜会・第31回総会および親睦会は7月12日（土）に六稜同窓会・笹川忠士（74期）事務局長をお迎えして、メルパルク岡山で開催しました。今回は残念ながら高齢による体調不良や学会・会議出席や個人的理由で欠席された方が多く、総勢19名でした。S19卒（57期）からH17卒（117期）

で構成され、学生さんの出席はありませんでした。しかし、出席者が少なかったことで、かえって親密感が増し、談笑したりカラオケをしたり楽しく過ごせました。

さて最近の社会事情はめまぐるしく変化しています。クリミア半島におけるウクライナ VS ロシアや中国の海洋進出による周辺国との軋れきが生まれています。国内では中韓との歴史問題や国際貢献（PKO活動）のために「集団的自衛権の行使」が閣議決定されました。4月からは消費増税やデフレ脱却が見られ、さらに「兵庫県議の号泣会見（六稜同窓・97期、演技性人格障害）」、「脱法ハーブによる自動車事故」、「小保方氏によるSTAP細胞疑惑」など会話のテーマには事欠きませんでした。この社会事情を乗り切るためには岡山六稜会の強い「絆」と「団結」が必要です。今年度のRI会長テーマは「Light Up Rotary（ロータリーに輝きを）」です。そして岡山六稜会に輝きを。

来年の第32回総会と親睦会は平成27年6月上旬を予定しています。再開を楽しみにしております。

文化芸術祭のすべて

文化祭は如何にして進化を遂げたか

北野でもっとも新しい伝統行事が《文芸祭》。「文化芸術祭」のことを略して、こう呼ぶのですが…先輩諸氏の中にはご存知ない方もおられるかも知れません。「文化祭」とも違う…文化祭から派生した、この「文芸祭」のルーツに迫ってみたいと思います。



特集＋表紙デザイン
谷 卓司(98期)

レポーター
星波 綾(118期)

大阪にある「声のプロダクション」(株式会社キャラ)に所属し、関西を中心にナレーターやイベントMC、リポーターとして活動中。
【主なレギュラー番組】
◎近鉄ケーブルネットワーク「どこでも生中継! KCNなライブ」リポーター
◎びわ湖放送「あざせ! ホールインワン」リポーター
◎e-radio (FM滋 賀)「spice-e」パーソナリティ
◎FM宝塚「西本真詞のBE FINE TOMORROW」アシスタント
※詳しくはwebで→<http://chara.co.jp/>



文芸祭前史 今年の年末に第16回を数える文芸祭が始まったのは、世界中が「ミレニアム」に湧いた西暦2000年(平成12年)のこと。ただし、当時は2月に実施されていたので、学校行事的には平成11年度の開催でした。

この年、北野では伝統行事に大きな変革がもたらされました。それまで6月の土・日…2日間にわたって開催されていた「文化祭」が、日曜1日限りの開催となり、「六稜祭」へと名称変更されたのです。このとき減った1日を埋めるカタチで「文化芸術祭(舞台発表部門)」が生み出されました。

どういう事情があったのでしょうか。当時、国語科で教鞭を執っていた鎌田俊一先生に時代背景を聞いてみました。

「北野に《体育祭》は無い。あくまで《体育大会》は「祭」ではなく「競技会」であり…北野の体育科は歴代その

ことにこだわり、誇りをもって運営にあたってきた。いっぽう《文化祭》は(「祭」と銘打たれてはいるものの)「文化(部)」の発表の場である…というのが北野の理念」…であって、およそ一般的な(他校に見られる)「文化祭」イメージとは掛け離れたものでした。すなわち、飲食は禁止、物品販売も禁止(文芸部の部誌販売だけが例外)、お化け屋敷の類も禁止…実に制約の多い「祭」だったのです。

といっても(建前上は)生徒主体の文化祭実行委員会に委ねられていた筈だから、生徒の側もとくに「制約」と感じてなかったのかも知れませんが。

そんな文化祭にもじわじわと時代の波が押し寄せます。嚆矢は1994年(平成6年)の第47回文化祭で開催されたチャリティーバザー。「WE ARE THE WORLD」のテーマのもと、生徒・教職員から集めら

れた多数の物品が、体育館1階の剣道場で、初めて「販売」されたのです。このときの収益金は、中夜祭のチャリティイベントで、医師の畑野研太郎さん(75期)を通じて、バングラデシュのハンセン病治療活動に贈られました。

1998年(平成10年)の第51回文化祭では、いよいよ模擬店が解禁となり、物品バザーに加えて食品バザーも認められ、その収益は校内の緑化基金に当てられることになりました。北野の文化祭をもっと楽しい学園祭的なものにしたい…という生徒自治会の希望が、遂に実を結んだと同時に、これが「文化祭」としての最後の開催となったのです。

文芸祭の誕生 1999年(平成11年)は北野の文化祭が新しい一歩を踏み出した年でした。すなわち、従来からある伝統行事の「真摯な北野文化の祭典」としての文化祭と、遊びと娯楽要素を盛り込んだ「学園祭

的な文化祭」と…この2つの性格の異なる文化祭を別々に実施しようというのが、北野が辿り着いた結論だったのです。

まず6月13日(日)、学園祭としての新生文化祭が「第1回六稜祭」として開催されました。ただし、当時のプログラムを見ると「六稜祭」と銘打ったタイトルのそばに「第52回文化祭」が併記されています。劇的な制度変更ではなく、あくまでも自然な定着を狙ったのでしょうか。

内容は、①緑化バザー、②食品バザー、③教室を使った展示・発表・ゲームなど、④講堂・視聴覚教室・体育館を使った演奏・演劇など、⑤後夜祭…というものでした。折しも校舎改築の第1期工事が進展する中、昭和校舎を用いた最後の文化祭となりました。六稜同窓会も206号教室にブースを出展。六稜Webの閲覧コーナーや校舎改築速報(定点観測)の中間報告、新校舎と同窓会館の模型も展示されるな

ど、好評を博したようです。そして翌年2月。いよいよ「文化芸術祭」の幕が上がるのでした。

文芸祭の構成 文芸祭は、舞台発表と展示発表の2つの部門で構成されます。前者は校外のホールを1日借りて実施され、後者は校内で約1週間の期間開催されています。「教科と文化部が活動の成果を発表する場」として、「生徒が文化的素養・学習成果を最大限発揮できるように、指導部と各教科が主体的に企画運営」するものとされています。なお、ここで言う「教科」とは、いわゆる大学受験に関係のない教科…すなわち、芸術科(音楽・美術・書道)、保健体育科、家庭科を指しています。

文化部の総顧問を務め、文芸祭の牽引役のキーパーソンであった音楽科の佐々木信明先生に、当時の様子を尋ねました。

※なお、佐々木さんは2013年3月に教員を退職、日生中央駅前で念願の喫茶店(カフェ・ブーランク)をオープンされ、日夜マスターとして第二の人生を邁進されているのですが、本稿では便宜的に「佐々木先生」とお呼びすることにします。

実は、当時、音楽選抜生にはすでに「音楽フェスティバル」という発表の機会がありました。文芸祭は…いわば、そのような機会を書道・美術選抜者にも、また、他教科にも拡大しようとする機運だったのです。

少し昔話になりますが…ルーツをお話します。ボクは北野に1991年4月に着任しましたが、その年度の2月(厳密には1992年)に「合唱コンクール」というのを始めました。第1回は1年生の音楽選抜6クラスだけの参加。寒い講堂で…他の教科やクラブ活動になるべく影響がないように、土曜日の放課後に細々と開催したのです。

教頭の肥塚敏彰先生(72期)が音楽部の出身だった

こともあり、審査員をお願いしました。また、去年(2013年)北野に校長で戻って来られた原田恵子先生も当時、国語科におられて、審査員をお願いしたお一人でした。優勝チームのために「月桂冠」を手作りして協力してくれた今村重彦先生(社会科)や、後年「花にらバッジ」の創設にも尽力してくれた福田稔先生(化学科・83期)など…ごく少数の賛同者に支えられながらの離陸でした。

第2回(1992年)からは開催を11月に変更して、1・2年生の音楽選択生徒を中心に、毎年、講堂で実施しました。クラス対抗の合唱コンクールに加え、独唱・二重唱・ピアノ・ギター・シンセサイザーの演奏、コーラス部の演奏など…試行錯誤をしながら、この頃ほぼ原型が形成されていきました。

第4回(1994年)で「全体合唱」を採り入れました。1年生が「大地讃頌」(大木惇夫作詞・佐藤真作曲のカンタータ『土の歌』終曲)を、2年生が「河口」(丸山豊作詞・團伊玖磨作曲の混声合唱組曲『筑後川』終曲)をそれぞれ熱唱し、授業では体験できない合唱の醍醐味に触れさせることができました。

第6回(1996年)のとき、名称を生徒に公募して「音楽フェスティバル」へと変更しました。この頃から保護者や卒業生の見学も増え、生徒同士の競い合いも盛んになって、合唱コンクールとしての体裁が本格化し始めました。

音楽科には、こうした下地がありましたので「いざ、文芸祭」となっても特別、慌てることはなかったのです。



▲最後の単独開催となった第8回音楽フェスティバル(1998.11.21)

文芸祭概観 第1回は2000年(平成12年)2月の開催。舞台発表が5日に豊中市市民会館で、展示発表が5～10日に図書館自習室で行われました。

前者は、卒業生による記念講演を併催するものとし、第1回は平成校舎の原案設計をした竹山聖さん(85期)に「未来の記憶」と題する講演を、また、午後から舞台発表部門では、保健体育科主催の「ダンス・ダンス・ワールド」で開幕(2年生女子のダンスの授業の中で優秀な選抜チームだけが舞台上で上演できる)。その後、第9回音楽フェスティバルへと舞台が移ります(音フェスだけが「第9回」なのは、前述通り、1992年に始めた「合唱コンクール」に起点を置いていたから)。客演として卒業生のプロ(ピアノ：香取由香さん、ソプラノ：岡田早代子さん。ともに109期)を招聘しましたが、文芸祭の主旨にそぐわないという意見が出て、招待演奏はこの回限りとなりました。

後者の展示発表部門は、5日のみが一般公開とされ、7～10日は本校生徒のみが対象で、昼休みと放課後に開場されました。発表教科は美術科・書道科・家庭科・化学科、参加クラブは美術部・書道部・写真部・新聞部・漫画研究同好会で、映画研究部が視聴覚教室で名画上映会を7・8日に実施しました。

第2回(2001年)で舞台発表の会場を新大阪のメルパルクホールに変更。豊中市市民会館が広すぎて音響が悪かったのがネックだったのですが、その代償に会場費は高騰しました。校長の秋田典昭先生の後押しが無ければ実現しなかったことでしょう。展示発表も校舎改築工事の影響で一箇所でもとまって開催することができず、数年の間、各教科の教室で分散開催を余儀なくされました。

第3回(2002年)では音楽フェスティバルに「稜声会合唱団」が出演。これだけ合唱がメジャーな北野でも、クラブとしてのコーラス部は部員が伸び悩み廃部の危機に直面していました。それを何とか阻止したいOB・OGたちの熱い思いを佐々木先生が汲んで実現したものです。後にも先にも卒業生の団体が音フェスに出演したのは、稜声会を置いて他にありません。翌第4回にも出演し(それが功を奏したかは分かりませんが)現在、コーラス部は元気に復活を遂げています。展示発表でも常連教科(美術・書道・家庭)と化学科に加え、英語科が初登場。

第4回(2003年)から舞台発表のビデオ記録と販売がスタート。音楽選択生徒とダンス出演者を中心に、希望者に限定販売されています。当時はVHSのみの提供でした。また、この年から音フェスの「全体合唱」で《青春の輝き》が歌われるようになりました。以後、11年間に渡り愛唱され続け、多くの卒業生が口ずさめる懐かしいメロディとなっています。

第5回(2004年)より展示発表部門の会場として六稜会館が利用され始めます。前年秋にオープンしたもので、もっぱら1階の六稜サロンいっぱいに展示壁を設えて利用されることが多いようです。常連教科に「保健体育」と「1年総合学習」が初めて加わり、クラブ参加でも珍しく「囲碁将棋部」の名が見られました。

第6回(2005年)では音フェスのプログラムに初めて「二重唱」が現れます。ピアノやヴァイオリンといった器楽のソロ演奏は、幼少の頃より嗜むプロはだしの生徒が毎年少なからずいて、オーディションで選考されて出演している(演奏クオリティの高さも定評あり)のですが、歌のソロは…おそらく習い事をしていたとも思えず、どんなにカラオケで鍛えていたと

しても(笑)、授業で声楽を少し囁ただけの素人に、舞台上で、大聴衆を見おろしながら、ミュージカルのナンバーを熱唱させる…のも(出演者以上に佐々木先生も)勇気が要ったこととされますが、これ以後、成功に気をよくしたのか、毎年恒例の名物プログラムとなっていきます。展示発表の教科に「SSコース」の名が初出したのもこの年でした。

第7回(2006年)より記録ビデオにDVDが試験的に導入されます。約2時間半という長尺のため、2枚組での提供でした。VHSの販売はこの年で終了しました。また音フェスでは2年生の「二重唱」に加えて、1年生の「3大テノール?!世紀の競演～オーソレミオ」が初出。歌の巧い生徒がその学年にいるかどうか…という要素も重要ですが、佐々木先生の「実験」は次第にエスカレートしていくのでした(笑)。

第8回(2007年)から舞台発表の会場が吹田のメイシアターに変わりました。メルパルクホールも淀川区にあって便利ではあったのですが、商業ホール特有(?)の舞台スタッフの気質(行儀?)が教育上好ましくなかったそうです。展示発表も六稜会館1階での開催が定着し、クラブ参加が盛況であったのもこの頃。

第9回(2008年)、音フェスの名物プログラム「オーソレミオ!」(1年生)と「ミュージカル愛のデュエット集」(2年生)がこの回からほぼ定番化。コスチュームに凝った年もありました(オペラ座の「怪人」など)。

第10回(2009年)から、ダンスの発表にダンス部が初参加します。練習量が圧倒的に多い分、演技にも力量を見せつけました。

第11回(2010年)からは、展示発表部門の会期に合わせて、地階ギャラリーが2日間だけオープンすることになり、校史資料の常設展示に加えて、佐伯祐三の貴重な作品が展覧されました。翌第12回(2011年)からは、手塚治虫の作品(周年事業の記念講演の際に、舞台上で模造紙にマジックインキで走り書きしたもの。2007年に同窓会の費用で表装が行われました)も加わり、毎年恒例の公開となっています。

第13回(2011年)は文芸祭にひとつの転機が訪れた年です。それまで恒例だった2月の開催が12月へと前倒しされたため、結果として2011年には都合2回開催されています(もちろん、学校「年度」的には1年に1回の行事として変わらないのですが…)。

そもそもの発端は佐々木先生が文芸祭の廃止を提案されたところから。もともと2月開催は①1年を通して行事が少なかった、②「年度末」ということで発表教科的にも1年間の総括的な意味合いを持たせられた…からでしたが、SSコースや文理学科の導入に



▲第4回～第6回はVHSのみの販売。VHSは第7回で終了



展示発表部門の表彰式やダンスも包含して一本化された。

より…全クラスに課されるようになった「課題研究」の発表が2月に設定されたため(「北野が予備校化している」という揶揄の声が聞こえたのもこの頃)、とても開催は困難であろう…との判断だったようです。近郊競走も2月の風物詩です。

結局、生徒や保護者の強い要請により、文芸祭自体は継続されることとなり、実施時期を年末の12月にずらしての開催に落ち着きました(この紆余曲折の所為で、会場が池田のアゼリアホールに変更されましたが、翌年からはメイシアター大ホールに戻っています)。また、ビデオ頒布にブルーレイが加わり、2枚組DVDとどちらかを選べるようになりました。

第14回(2012年)は佐々木先生最後の文芸祭でしたが、早期退職については予め生徒には知らされませんでした。そのため、普段と変わりなく、粛々とプログラムが進行。また、この2年間ほど連続して記念講演の実施が無かったのですが、佐々木先生のタフネゴにより、たかのてるこさん(101期)の登壇が実現。万国共通語の大阪弁で世界を渡り歩く彼女の講演に覇気を貰った高校生は多かったことでしょう。

第15回(2013年)は音楽科の仁科太佑先生が着任して最初の文芸祭となりました。後任について佐々木先生は「むしろ指導力豊富なベテラン教諭よりも、情熱があって柔軟な若い教諭のほうが望ましい」という助言を校長に対して話していたそうですが、まさに希望通りの人材が赴任した格好となりました。

着任直前の3月に北野を訪れ、音楽準備室で引き継ぎを受けた仁科先生は、初めて「文芸祭」の存在を知ったそうです。そして「この行事だけは守り継いで欲しい」という佐々木先生の思いと過去の記録DVDを手渡されたそうです。仁科先生に聞いてみました。「マジですか!？」というのが最初の感想でした。女

子より男子の声の方が大きい合唱…にも驚きを隠せませんでしたし、ソロ演奏者のレベルの高さにも度肝を抜かれました。こんな生徒たちを相手に授業をして、さらにその成果を高水準の発表までもって行かれていた前任の佐々木先生は本当に偉大だと思いました。そして何より、20数年北野で教鞭をとられてきた先生の後を引き継ぐことのプレッシャーは筆舌に尽くし難いものでした。

赴任早々、ビデオ制作の谷さんに連絡を取らせていただいて、「鬼が笑いそう」と笑われましたが、焦燥感があったことは事実です。大きなイベントがあることは決まっているけれども、中身に関しては私一人に委ねられている部分があったので、できる限り早い段階で準備をし、前倒しで片づけていきました。

また、家庭科の徳永美和子先生の助言もあって、意図的に「音楽フェスティバル」という単語は一切使いませんでした。佐々木先生の偉業には敬意を表しますが、あくまで文芸祭において「音楽科」は1パーツに過ぎないと考えますので。

仁科先生の述懐通り、第15回文芸祭のプログラムには「音楽フェスティバル」の表記はありません。舞台の構成上も「展示発表部門」の優秀生徒の表彰式を盛り込んだり、それまで別々だった「音楽フェスティバル」と「ダンス・ダンス・ワールド」の記録ビデオも、「文芸祭」記録として一本化されました。

「音楽の部」においても、「佐々木先生の実験」は継承され「2年生音楽選択生選抜」として、36人の選抜生にミュージカル『レ・ミゼラブル』から9曲のナンバーをソロとして熱唱させたり。そうかと思えば、2年生の全体合唱では、J.ラターの「グロリア」を選曲するなど…仁科ディレクターの極めて温故知新的な采配によって、昨年Xmasイブに行われた新生・文芸祭は、また新たな歴史を刻み始めたのでした。

催事委員会【お知らせ】



Facebookに六稜トークリレーの公式ページを開設
www.facebook.com/rikuryo

同窓会の公式ホームページ「六稜Web」でもトークリレーの情報を随時(<http://rikuryo.or.jp/talkrelay/>) お知らせ致しておりますが、この度、流行のSNS「Facebook」にも公式ページを立ち上げました。広報委員会と協働態勢のもと、この両輪で最新情報をお伝えして参ります。ご覧になられた方は、ぜひ  いいね! を押してください!!

東西講演会

東京六稜倶楽部

<http://rikuryo.or.jp/tokyo/rikuryo-club/>

日 時★毎月(第3)水曜日
11:00開場 11:30開演(約2.5時間)
会 場★ライオン銀座クラシックホール
(銀座ライオン7丁目店6F)
会 費★2,000円(ランチバイキング付)
主 催★東京六稜会
事務局★松本邦宏@70期/細見裕子@77期/山上芳昭@79期

9月17日	第141回	津田信一さん @94期 (虎ノ門法律経済事務所弁護士) 「五十にして弁護士となった訳」
10月15日	第142回	田中和明さん @83期 (新日鐵住金株式会社 君津製鐵所 一貫品質企画室長) 「金属の基本」
11月19日	第143回	佐藤勝昭さん @72期 (東京農工大学名誉教授、 科学技術振興機構) 「太陽電池のキホン」
12月17日	第144回	山本英司さん @77期 (元セイコーインスツル株式会社 半導体海外企画部長) 「時の流れに身をまかせ ～江戸の生活と“時”」
2015年 1月21日	第145回	阪田雅裕さん @74期 (アンダーソン・毛利・友常法律事務所 顧問 元 内閣法制局長官) 「政府の憲法解釈と集団的自衛権」

六稜トークリレー
Rikuryo Talk Relay

<http://rikuryo.or.jp/talkrelay/>

日 時★原則、毎月(第1)土曜日
13:30会場 14:00開演(約2時間)
会 場★六稜ホール(六稜会館3F)
※1Fロビーも同時使用可
会 費★500円(お飲み物を準備しています)
主 催★六稜同窓会
共 催★各期同期会 or クラブOB/OG会など

9月6日	第122回	出口学さん @94期 (北野高校・社会科) 「北野高校の国際交流活動」
10月4日	第123回	杉村和朗さん @83期 (神戸大学医学部付属病院院長) 「高齢化の時代:小さく見つけて 優しく治すがん医療をめざして」
11月15日	第124回	阪田雅裕さん @74期 (アンダーソン・毛利・友常法律事務所 顧問 元 内閣法制局長官) 「政府の憲法解釈と集団的自衛権」 ※オーケストラ部の演奏あり
12月6日	第125回	野村正朗さん @82期 (同窓会副会長・元りそな銀行頭取) 「銀行はおもしろい」
2015年 2月7日	第126回	三谷秀史さん @82期 (前 内閣情報官) 「演題未定」
3月7日	第127回	廣瀬俊朗さん @112期 (ラグビー元日本代表・ 東芝ブレイブ・ルーパーズ所属) 「演題未定」

※予定は変更になる可能性があります。直前に六稜Web等でご確認ください。

六稜文庫 7月末までのご寄贈受付分

<http://www.rikuryo.or.jp/activity/books/?p=3>

「移動する英米文学」	伊藤佳子 (75期)	「白い風」	冬野すみれ (73期)
「軽井沢とサンティアゴ」	齋藤隆 (81期)	「フランス式庭園の魅力とル・ノートルの世界(改訂版)」	杉尾伸太郎 (67期)
「大学六年生の作り方」 「結局ゾロ目を見逃す」	前田亮 (105期)	「正確なシャープニング安全なスクレーラー操作」	福池久恵 (98期)
「なぜ社会とつながるのか」	岸本嘉名男 (68期)	ご寄贈有り難うございました。	
「新潮45 2014年4月号」	徳岡孝夫 (60期)		

ご存知ですか?



一度、六稜Webを経由してamazon.co.jpでショッピングをした場合、購入代金の数%がAmazon社から六稜同窓会へ寄付されます。本を売価で買って、著者を応援し、同時に母校への還元にもなる……ちょっと「いい気分」なプログラム。ぜひ、ご協力ください!(書籍以外の商品もすべて有効です。) <http://rikuryo.or.jp/books/amazon-associate/>

いますぐクリック→



Party Reports

●60期同窓会総会

河野英通（60期）



昨年9月に「戦時下の北野生」と題して行われたトークリレーで配布された資料によると、60期の授業日数は3年生96日、4年生88日、当時の学制によって終戦の翌年3月に4年修了で進学した者は4年間合計711日。恐らく北野140年の歴史の中で一番勉強しなかった期に違いない。勉強出来なかった運命の代償として長寿を授かったのか、長生きしたかったら勉強するなという怠け者には有難い教訓なのかどうかは知らないが、あの飢餓時代に思春期を過ごした男たちが米寿を目前にした今年、その40%、123名の健在が確認されている。

その60期は、勤労動員先も小グループに分けられて各地に分散していたにも拘わらず団結力の強さでも数少ない期になっている。この数年は減少が目立っては来たが、今でも毎月第二水曜日の夕刻、20名前後が大阪梅田に集まる「二水会」、そして記録に残っているだけでも1978年から37年間毎年欠かさず開かれている総会である。今年も5月14日正午、ウェスティンホテル大阪に夫人も含めて33名が元気な顔を見せた。席上これらの資料が配られ、勤労動員の思い出などを語り合った。料理を運んできた若いウェイトレスが、「その頃は未だ十四、五歳だったのにねえ!」と感嘆し、「それにしても皆さん残さずによく召し上がられますね」と言った。幼い頃にはご飯一粒食べ残すと眼がつぶれると脅かされた上に、青年期の飢餓地獄のトラウマが重なって、今でも食べ残しが出来ないことを説明する気にはならなかった。

●六稜63期同窓会報告

阪田喜秋（63期）

日時：2014年4月5日（土）
会場：ホテルグランヴィア大阪
出席者：53名（内、女子18名、大手前移籍者9名）
川口孝義君の司会で12時半に開会し、この一年間の11名の物故者への黙祷、松園勢津枝さんのリードによる校歌斉唱、阪田挨拶、坂内精次君の会計報告があり、大手前代表の新酒 武君の乾杯の音頭で宴が始まりました。

慣例とは言え、本年も同窓会で再会出来た事をお互いに喜ぶとともに、身体不調で欠席の友の返信を見て、その身を案じました。

私達は太平洋戦争末期の昭和20年4月に男子は旧制の北野中学校に、女子は、同、大手前女学校に入学し、同年8月15日に敗戦を迎え、以後3年間を過ごした後、昭和23年4月に教育制度改革で北野中学校と大手前女学校の生徒を、その居住地により、ほぼ半数の人員を互いに交換して男女共学の新制度の北野高等学校と大手前高等学校の生徒として残る3年間を過ごしました。

しかも中学校、女学校入学時はアメリカ空軍の空襲が熾烈を極め、入学試験は特例として中止となり、後にも先にも例の無い、受験者全員無試験入学の63期生となりました。

今では、私達が、この史実に言及しなければ、殆どの同窓会員がご存じ無い事だと思います。

本年、数え年83歳ですが、この年齢になっても、毎年、同窓会が出来るのは、この希有な経験が有ったの事かも知れません。

宴たけなわになれば、往時に帰って話し込み、時間の経過も忘れてしまいます。

富岡迅夫君の様に悲壮感を込めて、現代に対する警世のマイクを握る人も現れました。

あっという間に時間も過ぎ、比山實二君の中締め、浦西正雄君の閉会の挨拶で、来年の4月4日の再会を約して、お開きとなりました。

今回も企画、受付等にご協力戴いた青木庸子さん、津田 治君、山下永子さんに感謝いたします。



●旅、私たちの旅の方法

山路龍天（70期）



旅をする。それも気心の知れた10数人から10人弱で海外の山地を10日あまり、できるなら3連泊を重ねて移動する。「讀山会」（70期の山歩き会）のちょっと豪華な気分に分派活動である。

2000年からスイス・オーストリア・イタリアのドロミテと旅してきたが、ここでは触れない。最初の中国旅行（1993年）では、バス2台を連ねていった総勢40名の上海・北京・西安への旅で始めて秦の始皇帝が遺したものの大きさに肌に戦慄が走った。

また、悠久の時を下った感のある長江三峡下りでも、敦煌の莫高窟の一大遺跡でも、6250mの四姑娘山麓の夥しいエーデルワイス、その5000mを超える峠でみた青・黄・白・赤の4色種夫々の壟栗の花々、黄龍・九寨溝という天下の奇勝でも、強烈な印象は拭い去り難い。

今年、2014年は、斎藤泰乃さんの提唱で「レ・ゼクラン（4102m）」と「ラ・メージュ（3983m）」の全貌を表から裏から5日間に亘って究めることができた。一行は斎藤・赤松・藤森・東海林夫妻・安場・山路、それに「3年10組」の江田・木脇の9人。

この旅では、安場君と僕が同室。物干し紐を張る余地のない部屋に、紐をいかに張るかが、以後の課題になった。満艦飾の洗濯物の向こうに、折からのワールドカップの（ブラジルとの時差の少ない）試合を連夜観ることができた。対独戦に20分間に5ゴールを喫したブラジルには、気の毒極まりなかったけれど。

思えば、去年2013年は、大谷健

二君の主唱のプログラムに従って、スイス鉄道を観て廻った。うまいピザ屋で満腹した後、大急ぎで列車に駆け込んだことなど忘れ難い。弱脚組集団とはいえ、相当歩いたうえで汽車や汽船へと乗り継ぐ面白さは格別だった。

旅にはそれぞれ方法がある。が、方法が方法として意識されなくなって始めて、人はそれを獲得したといえるのではあるまいか。

●六稜71期卒業55周年記念同窓会を開催

半田忠彦（71期）

71期の同窓会は、大阪（西）と東京（東）に日頃は分かれ、毎年1回以上開催していますが、卒業20周年以降は5年毎と還暦時に全体での同窓会を開催し、30周年以降は1泊2日の旅行をしている。

今春卒業55周年を記念し、去る平成26年6月4日～5日に、1泊2日の記念同窓会を開催し、米国および豪州在住の同窓生を含む80名が、滋賀県浜大津の「琵琶湖ホテル」に集まりました。

71期同窓会の会長である国定浩一君が開会の挨拶をし、六稜同窓会会長の大役を今春終えた山本雅弘君の乾杯で会は盛り上がり、73歳の男女は、すっかり高校生気分で談笑が続きしました。

記念同窓会の後もホテルの別室で2次会を用意し50名弱の高校生気分の同窓生が11：00前までは怪気炎を上げた次第です。

計画では、翌日近江八幡で水郷巡りの舟遊びと城下町の散策を予定していましたが、天候に恵まれず急遽佐川美術館拝観に切り替え、前日の意気盛んな高揚を、美術鑑賞により高尚なものに替えようとしたが、皆さんの勢いは収まらず、美術館の素晴らしい庭園と建物を見ながら、喫茶室でまたワイワイガヤガヤの賑やかな記念同窓会でした。



●六稜さんご会同窓会の報告

灰 井 正 起 (72期)



本同窓会は、平成26年6月21日午後1時よりANAクラウンプラザホテル大阪 万葉の間で、恩師野々村先生をお迎えして109名の同窓生の参加のもと盛大に開催されました。

72期は、だいたい2年毎に幹事クラスが持ち回りで開催するとのルールであります。今年は我々2組が幹事組となりました。

2組クラス幹事 大崎、坂野、松野、灰井、前原、篠田、大西、佐野が、平成25年から26年にかけて集まり、また開催を6月と決めておりましたので、何か涼しげなものをと考え、最近見せてもらった坂野君たちのハワイアン演奏とフラダンスを企画しました。しかも、私自身北野出身で同学年の方で何か出来たらよいと考えておりました。そして出来たら会費を安くするためにはと、考えまして、全体会議を何度も開催しました。各クラスの幹事には、出来るだけ手間をかけぬようにしたつもりです。残念ながら、動員に関しては各クラスの幹事にお手数をお掛けし申し訳ありませんでした。

会は、ハワイアン演奏で始まり、素晴らしいフラダンス、私も金屏風を見ますと舞いたくなり、謡曲を歌いながらの「高砂」を一舞。そして、野々村先生の挨拶、乾杯と続き、東日本大震災で被災された栗山君の仙台での生活の紹介、物故者の方(2年間で8名)へのご冥福を祈る、暫しの黙祷、そして歓談しながらのエールを交歓しました。

松野君の名司会により本当に充実したひと時を過ごすことができました。北野の同窓生の強い絆を感じ、良かったとの思いが募りました。

これも偏に各クラス幹事の皆様のご協力の賜と感謝申し上げます。

坂野君には、体調が悪いにもかかわらず、引き受けて頂きありがとう。

南君の指揮の下、校歌を声高らかに歌って閉会となりました。

●80期同期会報告

伊 藤 園 子 (80期)

毎年恒例となっている80期同期会(やっとう会)が、7月5日(土)開催されました。場所は、大阪駅前のホテルグランヴィア大阪20階、鶴寿の間。

須原先生(当時、男子の体育でお世話になっていた)をお招きし、この1年の間に亡くなった同窓生に黙とうをして、会は静かに幕を開けました。

まず初めは、今年度から六稜同窓会の会長に就いた上田成之助さんからの挨拶、須原先生が音頭をとられての乾杯、にぎやかに会は進行していききました。総勢66名、東京などの遠方からも10名が参加、会はますます盛り上がりしました。

二次会込みで4時間、ビンゴ大会では、いろいろな景品を披露しあい、交換などして、たいへん楽しいひと時を過ごせたと好評でした。

80期の我々は、今年から基礎年金をもらえる年齢となりました。まだまだ仕事に精を出している人、第二第三の仕事についている人、リタイアして今までできなかったことを思う存分している人など様々ですが、笑顔の喋り声がとても賑やかでした。

全員で集合写真を撮り、ほとんどの人が、そのまま2次会に参加しました。

2次会の幕開けは、歌手として活躍している北岡樹さんの音頭で、「白いブランコ」を歌いました。皆で一緒にいろいろな歌を歌い、若返った気分になったことでしょう。



最後には、校歌を大合唱し、来年も同期会で再会できることを願って、無事お開きとなりました。

毎年12月に開催している東京での80期同期会を、今年は11月29日(土)に開催するとの報告がありました。

80期の同期会は、毎年大阪で7月、東京で12月(11月)の年2回、開催しています。80期の皆様ぜひご参加ください。

●96期同窓会報告

遅ればせながら来年に向けて

森 川 将 行 (96期)



96期1～6組



96期7～12組

もう1年以上経ったのに、知らぬ存ぜぬでは同期の仲間から後ろ指を指されております。

来年度96期は六稜同窓会総会を担当します。それに向けて、「あの楽しいひと時を思い出しもう一度」、「参加できなかったが次こそは是非」という方々が増えることを期待して、遅ればせながらご報告申し上げます。

平成25年6月29日午後5時半より、梅田ハートンホテル西梅田1階のガーデンキッチンにおきまして、96期の同窓会を3年ぶりに開催しました。前回より30名近く上回り131名(男性60名、女性71名)の参加が得られ、

5名の先生方にご参加頂きました。遠く愛媛宇和島よりお運び頂きました薬師寺春雄先生(数学)からは、同期生の素晴らしさを語って頂き、八尾隆先生(数学)からは、恒例のマジックを披露して頂きました。そして、青木三郎先生(古文)、平野修二先生(数学)、松浦賢二先生(世界史)とご近況や激励を頂き、本当に有難うございました。

参加者にはアメリカからかけつけた方もあり、また、新たな同期生同士の入籍報告という嬉しいサプライズもありと、和やかに旧交を温めました。2次会にも60名がなだれこみ、その後は三々五々、いつものように、3、4次会という話もあり、ご苦勞様でした。平成27年度の六稜同窓会総会は、96期の同窓会をかねておりますので、ふるってのご参加をお願い致します。

●124期はじめての同期会

竹 中 一 真 (124期)

近年、卒業4年後に同期会を開催することが六稜生の慣例となっていますが、「4年も待てない」との声が多く、卒業から約2年の成人の日2日前に、124期同期会を開催しました。

初めての同期会で不安だらけでしたが、六稜同窓会のバックアップに助けて頂きました。同窓会館を使用できるので場所探しの必要はありませんし、事務局の方は開催のノウハウを丁寧に伝授してくださいました。学生にとって一番の壁である金銭面においても、同窓会から助成金を特別に頂き、こちらも大助かりでした。この紙面を借りて感謝申し上げます。

さらに、クラス幹事に協力してもらい、FacebookやLINEといったSNSを駆使して出欠確認や情報共有をし、面倒なハガキの発送作業や送付費用も省略することができました。その結果、なんと参加費1人500円というワンコイン同期会



が実現しました。

低プライス効果もあってか（?）、当日は同期319人中224人、それに5名の先生方にもお越し頂き、3階ホールは人で溢れかえる大盛況。学年主任の中谷先生による乾杯の音頭の後は、仲間との久しぶりの再会に話が尽きず、同期会後には3年生時のクラス単位で2次会が開催され、どのクラスも夜遅くまで盛り上がったようです。

次回2年後にはより盛大に開催しようといまから意気込んでいる中、来年にはクラス会をしようとの声も上がっています。横の結びつきをこうして維持しながら、我々若い世代から同窓会全体を盛り上げていければと思っています。

●山岳部 頑張っています！

高木 祐介（115期）

2013年5月、4年間部員不在だった六稜山岳部が復活しました！！山岳部を復活させた7年ぶりの新入部員・大住知暉君を中心に、現在は2年生4名・1年生4名の計8名で活動しており、月に1回、近隣の山々で登山をしています。普段の練習では、体力向上のためにランニングや階段昇降を行う他、炊事や天気図作成、テント設営の練習を行い、登山に必要なスキルを高めています。

夏休みは、満天の星空や高山植物が美しい北アルプスで合宿を行い、春休みは雪歩きをします。新入生を迎える登山や秋の登山では、花や紅葉がきれいな山々を選択します。山岳部の1年間の活動は、四季を楽しむ内容であり、部員達は高校3年間、都会では味わえない魅力的な自然の中を歩く経験を得ます。また、六稜山岳部は競技登山が強く、過去には大阪府大会を12年連続優勝し、全国高校総体（インターハイ）でも3位に輝いた実績（2回）があります。2014年度の大阪府大会では、7年ぶりの出場であったものの、見事、準優勝を果たしました。



山岳部の登山では、登山経験豊富な顧問の先生他、OB・OGも同伴し、安心して登山を楽しめます。同じ屋根の下で食事し、生活するため、部内はとてもアットホームな雰囲気です。是非、私たち六稜山岳部と一緒に、日本の山々へ出かけましょう！

●(赤道直下常夏の国) シンガポール六稜会

山口 登（87期）



四季のない国シンガポールでは、季節の変化ではなく毎年恒例のイベントにより月日の経過を実感しています。

年の後半に入ると、8月独立記念日式典、9月F1グランプリ、11月半ばには、イルミネーション点灯等クリスマスシーズンの到来、そして年末へと一気に進み、新たな年を迎えることとなります。

そんな月日の経過に加速感を増す、年の後半に入った7月26日（土）に今年2回目のシンガポール六稜会が開催されました。今回は、多くのメンバー及びそのご家族が一時帰国、休暇等で不在、不参加となる中、5名でのコンパクトな会となりましたが、世間お騒がせの北野OB等時事問題を含め話題には事欠かず、あっという間の3時間弱でした。

さて、シンガポール六稜会が、2008年3月の発足以降、四半期に1回開催を目処とするも確実に開催、継続できていることは、大変誇らしいことだと思います。北野繋がりやの強さを当地でも再認識させられます。現在メンバー数は、計十数名（87期～111期）と、ここ数年伸び悩んでいます。如何にして規模を拡大していくかが、今後共、現実的な課題です。

将来は、東南アジア諸国及び大洋州も含めた「アジアパシフィック六稜会」に発展できぬかと夢を膨らませ、私は、これから夜の街に出かけたいと思います。今宵は、六稜会に「乾杯」です。

同期会予告

●66期有志会

日 時：平成26年10月25日（土）12時より
場 所：大阪聘珍樓（へいちんろう）
梅田ヒルトンプラザ・イースト7F
出席確認のご案内状は9月20日頃お送りします。
今年は「傘寿」のお祝いをしたいと計画していますので奮ってご参加下さい。
連絡先：水野 瑛子
TEL/FAX：0727-70-2129

●67期同期会（卒後60周年及び少し早めの傘寿記念の会として）

日 時：平成27年4月25日（土）
10時半より同窓会館1階にて受付
その後3階にて式典及び記念撮影
場 所：ホテルプラザオーサカ19階
淀の間にて 12時半より
連絡先：日高 穂
TEL/FAX：06-6854-0524
勿論二次会会場も準備しております。詳細は送付のご案内状にて。

●70期同窓会

日 時：平成26年11月8日（土）
12：30～15：30（受付12：00）
場 所：日本綿業倶楽部（綿業会館）本館7階
〒541-0051
大阪市中央区備後町2丁目5番8号
TEL：06-6231-4881
FAX：06-6231-4940
連絡先：別所 義雄
TEL/FAX：072-792-2130
E-mail：y-bessho@jttk.zaq.ne.jp
今年も同窓会の時節がやってまいりました。皆様

●期別対抗ゴルフコンペ

栗田 芙仁雄（73期）



2014年8月3日、第25回六稜期別対抗ゴルフコンペが今回より場所を変え、レークスワンカントリー倶楽部で開催されました。71期～100期の六稜人166名が参加。夏真っ盛りのこの時期でしたが、台風12号の影響か、曇り時々雨がパラパラという絶好のコンディションで、熱中症も出ず全員が元気にホールアウト出来ました。

73期が栄えある優勝を勝ち取ることが出来ました。4年振り、4回目の喜びです。我々が同期の久保田さんの緻密にして大胆な作戦が実ったものです。「秘かに優勝を狙っているヨ」と高らかに述べ、参加者を奮え立たせました。東京より牧武志君・名古屋より東山馨君をわざわざ召集し、地元から植田伊織君・奥田耕三君・柴田英二君・芝原邦男君・永江博君・そして、紅一点の久保田静さんと私栗田がはせ参じました。

我々が73期は、石田雅明君が立ち上げ構築し、

のお手元にはすでにご案内が届いていることと思います。多数の皆様のご参加を幹事一同心からお待ちしています。

●74期みなわ会総会開催通知

日 時：平成26年11月15日（土）
14：00～16：00
講演会 六稜トークリレー参加（500円必要）
講師／阪田雅裕氏
（みなわ会会員 元内閣法制局長官）
場所／六稜会館3階
16：30～17：00
総会
場所／六稜会館3階
17：00～17：30
佐伯祐三絵画あるいは六稜会館地下ギャラリー見学
18：00～20：00
懇親会（会費等詳細未定）
場所／ホテルプラザオーサカ
日 時：平成26年11月16日（日）
10：00～17：00
山崎馨先生を偲んで「52年目のハイキング」
連絡先：壽榮松 正信
TEL/FAX：06-6301-4040

●76期卒業50周年記念同期会

早いもので東京オリンピックの年に卒業して早や50年が経過しました。今年は、恩師をお招きして又より楽しいイベントを企画していますので、多くの方の参加をお待ちしています。
日 時：11月29日（土）16：30より
（毎年11月の最終土曜日です）
場 所：ホテルプラザオーサカ
TEL（06）6303-1000
会 費：7,000円
学年代表幹事 奥田 稔
事務局 北岡 満

久保禎男君が継承している73期メーリングリストを通じ結束が固く、在学中はお互いに知らなくて卒業後メルアドにて急速に親しくなった同窓生が山ほどおります。

そして色んな形のゴルフコンペも楽しんでいます。古希2年越えの73期生ですが、ワンラウンド周れるだけの健康を維持し、出来ることなら来年も連続優勝といきたいものです。最後にこのコンペの第一回からの協力者、この6月に亡くなった石田雅明君と二年前に他界の木村市三君にも報告し、懐かしがって貰えるものと思っております。



2014年クラブ対抗ゴルフコンペのお知らせ

第26回六稜クラブ対抗ゴルフコンペ
日時：2014年9月28日（日）
9：36スタート
場所：レークスワンカントリー倶楽部

2015年期別対抗ゴルフコンペのお知らせ

第26回六稜期別対抗ゴルフコンペ
※日時・場所は未定ですが、5月連休明けを予定しています

北野高校国際交流

北野からケントへ

2014年 3 月22日から 4 月 3 日まで、今年も生徒 5 名と教員 2 名がケント地区の高校を訪問しました。「大阪府立北野高等学校国際交流報告集」より、その様子をご紹介します。

◇出発まで

シアトルへの派遣は北野高校の国際交流の一環として行われており、応募した人の中から選ばれた五人が派遣されます。選ぶとはいっても、何か特別な選抜試験のようなものがあるわけではなく、志望動機の選考を通った後は、普通のくじ引きで決まります。僕は、その前に修学旅行でいったグアムが楽しくて、なんとなく行ってみたいなという気持ちで応募しました。派遣が決まった時は嬉しくて、思わず飛び上がってしまいました。

(The Seattle－シアトル訪問体験記－)

◇シアトル着

シアトルに着くと、ホストの Louck 先生が迎えてくれました。そして、途中で買い物しながら車で Louck 先生の家へ。＜中略＞荷物を整理して少しゆっくりしていると、先生の娘の Lori（6 歳）が昼寝から起きてきました。軽く自己紹介をして、出発前に空港で急遽お土産に買った着物を着たキティちゃんのぬいぐるみをあげると、「Is this Chinese cloth？」ときかれました。6 歳の Lori にとっては日本も中国も同じように思えたのかも知れません。

(Seattle Forever)

◇ケントウッドにて

たくさんの授業を見学させてもらいましたが、その中で、私が気に入った授業を紹介します。1 つ目は陶芸です。土の塊から、丁寧にかたちを整え器にしていく作業はとても楽しく夢中になりました。私は土の感触が大好きで、この授業をとて気に入ったので、ほかの 4 人よりも多く陶芸



の授業に参加し、もうひとつ作品を作りました。
＜中略＞

3 つ目は数学です。文学や歴史の授業は内容をほとんど把握できませんでしたが、数学は理解することができました。 $\sqrt{x}$ のグラフを見てこれほどまでにうれしく思ったことはありません（笑）。言語は違えど数学は同じなんだと安心しました。

(TREASURE)

◇シアトル観光

ワシントン大学に連れて行ってくれたのは、そこがエミリーが秋から通う学校だからです。アメリカで10本の指に入るほどレベルの高い学校です。エミリーさすがです。私たちが行った時、ワシントン大学のキャンパスの桜は満開でした。キャンパスを散策しながらお互いの将来のことについて話しました。エミリーは大学でもっと日本語を勉強したいし、韓国語にも挑戦したいと話していました。

(行ってよかった、ケント。)

◇帰国

もし、この留学が無ければ、私は毎日のように塾の自習室に通い、何の刺激もない春休みを過ごしていたに違いありません。しかし、私はアメリカに行き、家族のような存在、一生の思い出、数えきれない程の Face Book 友達、コミュニケーション力を得て帰ってきました。私は、去年行った先輩が「行って後悔することはない」と言っていると聞きました。しかし、それは間違いです。後悔はしています。日本に帰ってきたことを。

(Change your life!)

ケントから北野へ

今年はケントレイクから女子 1 名の生徒とケントウッドから教員 1 名が来日しました。7 月 14 日の昼休みに放送で全校生徒に紹介された後、いろいろな授業に参加しました。北野での授業最終日の18日放課後には 11 教室で先生と生徒たちの farewell party が開かれました。

教職員異動（2014年 4 月現在、敬称略）

・退職

教 諭	国語	岡本 博彦
教 諭	国語	正者 充朗
再任用教諭として本校に勤務		
教諭(再任用)	社会	高橋 昌弘
教 諭	化学	川本 正司
非常勤講師として本校に勤務		
教 諭	体育	亀山 忍
再任用教諭として渋谷高等学校へ		
教 諭	英語	森田 一義
清風高等学校へ		
教諭(再任用)	英語	高倉 明子

・転出

教 諭	数学	黒田 真樹
大手前高等学校へ		
教 諭	物理	谷口 靖子
春日丘高等学校へ		
養護教諭	薬師寺 素子	
園芸高等学校へ		

・新着任

教 諭	国語	牧野 聡子
大阪教育大学附属池田校舎より		
教諭(再任用)	社会	畑中 利明
教 諭	数学	東 慎太郎
能勢高等学校より		
教諭(再任用)	数学	森下 敏明
教 諭	物理	山本 としこ (95期)
芦間高等学校より		
教 諭	化学	田中 宏之
初任（本校常勤講師から）		
常勤講師	化学	中川 道廣
教 諭	体育	宝本 力
初任		
教 諭	英語	林 裕子
茨木西高等学校より		
教 諭	英語	稲岡 慶子
初任		
常勤講師	英語	鴨田 真人
養護教諭	岡崎 政美	
枚方津田高等学校より		

平成26年度大学合格者・就職者数一覧

国立大学	
帯広畜産大学	1
北海道大学	7
東北大学	1
筑波大学	2
東京大学	8
東京外国語大学	2
一橋大学	1
横浜国立大学	1
富山大学	1
福井大学	2
信州大学	1
名古屋大学	1
滋賀大学	1
滋賀医科大学	1
京都大学	71
京都工芸繊維大学	7
大阪大学	67
大阪教育大学	6
神戸大学	35
奈良女子大学	2
岡山大学	4
広島大学	2
九州大学	1
九州工業大学	1
琉球大学	1
合 計	227

公立大学	
名古屋市立大学	1
滋賀県立大学	1
京都府立大学	2
大阪市立大学	14
大阪府立大学	22
兵庫県立大学	1
和歌山県立医科大学	2
福岡女子大学	2
合 計	45

私立大学	
慶応義塾大学	11
中央大学	3
東京理科大学	7
明治大学	9
早稲田大学	27
京都女子大学	11
京都薬科大学	5
同志社大学	169
同志社女子大学	8
立命館大学	116
龍谷大学	1
大阪医科大学	9
大阪薬科大学	5
関西大学	53
近畿大学	25
関西学院大学	47
甲南大学	6
神戸薬科大学	3
武庫川女子大学	1
その他の私立大学	41
合 計	557

準大学・専修学校等	
準大学	6
専修学校等	1
合 計	7

事務局だより

理事会報告

■平成26年 6 月28日開催

- 総会時の懇親会費用を75歳以上も2,000円徴収することを決定した。
- 光熱費の削減を検討、照明のLED 化など出来る範囲で見直す事を決定した。
- 総務委員会より、141周年総会に向けて担当期の95期と打合せを開始したと報告があった。
- 会館催事委員会より、トークリレー開催予定をMLで理事にも流し、同期へ呼びかけ・講師紹介を依頼、クラブOBOG 委員会の縦のネットワークも利用したいと報告があった。
- 名簿委員会より、140周年記念名簿の会計報告があった。
- 広報委員会より、会報63号への投稿お願いがあった。
- FR 委員会より、委員会活動が報告された。
- クラブOB・OG 委員会より、委員会立上げと参画のお願いがあった。
- 東京六校会報告と東京六校倶楽部運営についての報告があった。
- 事務局より、・文化活動振興賞（八木賞）の規約を改定し、文化活動に限定せず、クラブ活動全体に適用することに決定した。・140周年記念事業の報告があった。・国際交流振興委員会の報告があった。・毎週火曜日を事務局休館日とすることに決定した。
- 理事会終了後、クラブOB・OG 委員会、広報委員会が開催された。
総務委員会は同日午前中（11：00～12：30）に開催された。

年会費納入のお願い

同窓会の活動の原資は皆様に納入していただく年会費です。このほど納入にクレジットカードの使用が可能になり納入がし易くなりました。会費納入がまだの方は次の4 つの方法のいずれかで納入をお願い申し上げます。

1. ゆうちょ銀行での振り込み

この会報に同封の払込取扱票をお使い下さい。

加入者名：六校同窓会
口座番号：00990-4-68025

・名簿や記念品の申込にもこの票をお使い下さい

2. コンビニエンスストアでの振り込み

同じく払込取扱票（右側に付いているコンビニエンスストア用払込票）をお使い下さい。

3. 銀行での振り込み

一般の振込用紙をお使い下さい。

銀行名：三井住友銀行十三支店
口座番号：普通 1077672
口座名：六校同窓会

- ・振込者の氏名の前に必ず会員番号をご記入下さい。（会員番号が不明の方は事務局にお問い合わせ下さい）
 - ・振込手数料は振込者のご負担をお願いします。
- ### 4. クレジットカードでの振り込み
- パソコンで決済システム Pay Pal をお使い下さい。

Pay Pal の URL <http://payment.rikuryo.or.jp>

・クレジットカードは VISA, MASTER, AMEX, JCB がご利用になれます。

・Pay Pal の使い方マニュアルは六校同窓会公式サイト（六校 Web）をご参照下さい。

・ご利用の際に会員番号の入力が必要です（会員番号が不明の方は事務局にお問い合わせ下さい）

・Pay Pal の初回決済時に、自動決済と登録頂ければ、毎年4月1日に自動引落となり納入忘れを防ぐことができます。



同期会開催助成金をご利用ください。

下記の通り同期会開催助成金制度を設けておりますのでぜひご利用ください。

「同期会開催助成金制度」

1. 助成金制度の目的

これまで同窓会事務局では同期会の開催にたいして種々支援を行ってきたが、助成金を交付することにより定期的な同期会の開催を支援し、同窓会活動への関心を高めるとともに不明者の発掘を進め、ひいては会費の納入率アップに繋げる。

2. 助成金制度の概要

①助成金交付対象同期会

同期会が卒業後4年を経過した年及びその後毎年開催される同期会に対して年1回助成金を交付する。但し100期以降の卒業生で卒業後30年までとする。

②支援金の額

30,000円

③申請の手続き

開催する同期会の学年理事が同期会開催助成金申請書を同窓会会長宛てに同期会開催1か月前までに提出する。

④助成金の交付時期

同期会開催助成金申請書受理後速やかに支払う。

⑤助成を受けた同期会の開催場所は六校会館とする。

⑥助成を受けた同期会は同期会開催時に会費未納入者のリストおよび会費納入依頼書を配布して会費納入の促進に協力することとする。

⑦助成を受けた同期会は同期会開催後会報に開催報告を掲載することとする。

帰ってきた「割り舟」

会報61号で「漂流する割り舟」ということでご報告させていただきましたが、このほどその舟が北野高校に帰ってきました。学校とも相談の上取りあえず鑑定してもらおうということになり、専門業者に鑑定を依頼しました。業者による放射性炭素年代測定の結果は17世紀後半～20世紀前半にかけてのある時期に伐採された木材を使って作られたものであるとのことでした。従ってこの舟にこれまで言われてきたような考古学上の価値はないことが判明しました。今後は江戸時代以降に作られた舟ということで引き取っていただける先を探すこととなりました。会員の皆様で引き取り先のお心あたりのある方は事務局までご連絡をお願いします。

お悔やみ

平成25年9月以降、平成26年5月までにご連絡頂きました方々をご卒業期順、およびご逝去順に掲載しております。

（他に掲載辞退の方もいらっしゃいます）
謹んでお知らせ致します。なお、本欄に誤りのある場合は、事務局までお知らせ下さい。次号で訂正させていただきます。

（敬称略）

52期	濱本 卓	平成25年10月12日
53期	川上 厚志	平成25年9月27日
	中江 要介	平成26年3月6日
55期	櫻井 孟	平成25年11月8日
	杉本 正二	平成26年1月27日
	増田 釺男	平成26年2月13日
	村上 英二	平成26年2月25日
56期	菊池 三郎	平成25年11月19日
	河原 淳二	平成25年12月
57期	大場 健二	平成26年4月5日
58期	大谷 義和	平成25年12月13日
	安東 久明	平成25年12月15日
	植田 満	平成26年3月18日
	板野 安博	平成26年5月1日
59期	木村 篤文	平成26年1月8日
60期	土橋 輝弥	平成26年2月27日
61期	中塚 榮一	平成25年11月17日
	小林 宏成	平成25年12月30日
	松山 威雄	平成26年1月8日
	西岡 克生	平成26年1月18日
62期	尾辻 孟	平成26年3月9日

63期	平野 貞夫	平成25年10月9日	堀内 憲治	平成26年3月24日
	川原 繁宏	平成25年11月13日	79期 筒井 健次	平成26年3月13日
	清水 康男	平成25年11月28日	82期 越水 一雄	平成26年4月3日
	松下 修作	平成26年1月2日	103期 安達 由夏	平成26年5月27日
	実方 謙二	平成26年1月23日		
	西尾 雄太郎	平成26年2月16日		
	古賀 剛一	平成26年3月1日		
	栗橋 孝子	平成26年3月30日		
	阿山 勝彦	平成26年4月4日		
64期	馬詰 博之	平成25年10月4日		
	中川 隆司	平成26年1月12日		
	茂木 三夫	平成26年2月6日		
	橋本 清嗣	平成26年3月16日		
	畝狭 伸也	平成26年3月20日		
66期	石川 真代	平成25年11月22日		
	吉田 宇定	平成25年12月3日		
	廣瀬 晃一	平成26年2月22日		
67期	川村 晋司	平成25年10月27日		
	原口 真一	平成26年2月27日		
68期	伊藤 計	平成25年12月5日		
	吉野 忠治	平成26年3月11日		
	井上 美沙子	平成26年3月14日		
69期	深川 博夫	平成26年4月30日		
72期	芦田 俊夫	平成26年1月28日		
	吉田 隆	平成26年1月28日		
	井上 隆之	平成26年2月28日		
	田口 荘一	平成26年5月5日		
73期	河野 雅輝	平成26年2月28日		
74期	上田 迪子	平成26年2月14日		
75期	辻山 桂子	平成26年1月2日		
	石上 栄一	平成26年3月9日		
78期	福原 純	平成26年3月22日		

お詫び

会報62号でお知らせいたしました方々で、他界日の掲載誤りがありました。

72期西岡憲康様（他界日は、正しくは平成25年8月25日）謹んでお詫び申し上げます。

表紙解題

文化芸術祭の舞台発表部門は校外の公的なホールで開催される。近年はずっと吹田市のメイシアターで定着している。写真（上）はメイシアター大ホールの緞帳。また同じ時期に校内で展示発表部門が開催される。会期は約1週間で、近年は六校会館がその会場として定着しつつある。写真（中）は展示発表部門の優秀作と表彰式の様子。舞台発表部門は通例（旧卒業生講師による記念講演、①保健体育科による創作ダンスの発表、②音楽科による音楽フェスティバルの3部構成。フィナーレ是最優秀賞の合唱クラスが舞台上でリードしながら、客席の全員で校歌を斉唱して幕を閉じる（写真（下））。詳細は特集記事を参照。

六校カルチャー講座のお誘い

「世界史の旅」

佐々木利昌先生

平成26年

9月19日（第3金曜日）

11月21日（第3金曜日）

平成27年

1月16日（第3金曜日）

3月27日（第4金曜日）

5月15日（第3金曜日）

7月17日（第3金曜日）

- 日時：毎月第3 or 第4 金曜日 14:00～
- 会場：六校ホール（六校会館3F）

「英文学の名作の旅」

佐野哲郎先生

平成26年

10月24日（第4金曜日）

12月19日（第3金曜日）

平成27年

2月27日（第4金曜日）

4月24日（第4金曜日）

6月26日（第4金曜日）

8月28日（第4金曜日）

- 会館維持協力金：500円
- お問い合わせは 同窓会事務局まで